



# GNOME 2.2 システム管理 (Linux 版)

---

Sun Microsystems, Inc.  
4150 Network Circle  
Santa Clara, CA 95054  
U.S.A.

Part No: 817-4861-10  
2003 年 10 月

Copyright 2003 Sun Microsystems, Inc. 4150 Network Circle, Santa Clara, CA 95054 U.S.A. All rights reserved.

本製品およびそれに関連する文書は著作権法により保護されており、その使用、複製、頒布および逆コンパイルを制限するライセンスのもとにおいて頒布されます。サン・マイクロシステムズ株式会社による事前の許可なく、本製品および関連する文書のいかなる部分も、いかなる方法によっても複製することが禁じられます。

本製品の一部は、カリフォルニア大学からライセンスされている Berkeley BSD システムに基づいていることがあります。UNIX は、X/Open Company, Ltd. が独占的にライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。フォント技術を含む第三者のソフトウェアは、著作権により保護されており、提供者からライセンスを受けているものです。

Federal Acquisitions: Commercial Software—Government Users Subject to Standard License Terms and Conditions.

本製品に含まれる HG-MinchoL、HG-MinchoL-Sun、HG-PMinchoL-Sun、HG-GothicB、HG-GothicB-Sun、および HG-PGothicB-Sun は、株式会社リコーがリコービイマジクス株式会社からライセンス供与されたタイプフェイスマスタをもとに作成されたものです。HeiseiMin-W3H は、株式会社リコーが財団法人日本規格協会からライセンス供与されたタイプフェイスマスタをもとに作成されたものです。フォントとして無断複製することは禁止されています。

Sun、Sun Microsystems、docs.sun.com、AnswerBook、AnswerBook2 は、米国およびその他の国における米国 Sun Microsystems, Inc. (以下、米国 Sun Microsystems 社とします) の商標もしくは登録商標です。

サンのロゴマークおよび Solaris は、米国 Sun Microsystems 社の登録商標です。

すべての SPARC 商標は、米国 SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。SPARC 商標が付いた製品は、米国 Sun Microsystems 社が開発したアーキテクチャに基づくものです。

OPENLOOK、OpenBoot、JLE は、サン・マイクロシステムズ株式会社の登録商標です。

Wnn は、京都大学、株式会社アステック、オムロン株式会社で共同開発されたソフトウェアです。

Wnn6 は、オムロン株式会社、オムロンソフトウェア株式会社で共同開発されたソフトウェアです。© Copyright OMRON Co., Ltd. 1995-2000. All Rights Reserved. © Copyright OMRON SOFTWARE Co., Ltd. 1995-2002 All Rights Reserved.

「ATOK」は、株式会社ジャストシステムの登録商標です。

「ATOK Server/ATOK12」は、株式会社ジャストシステムの著作物であり、「ATOK Server/ATOK12」にかかる著作権その他の権利は、株式会社ジャストシステムおよび各権利者に帰属します。

本製品に含まれる郵便番号辞書 (7 桁/5 桁) は郵政事業庁が公開したデータを元に制作された物です (一部データの加工を行なっています)。

本製品に含まれるフェイスマーク辞書は、株式会社ビレッジセンターの許諾のもと、同社が発行する『インターネット・パソコン通信フェイスマークガイド '98』に添付のものを使用しています。© 1997 ビレッジセンター

Unicode は、Unicode, Inc. の商標です。

本書で参照されている製品やサービスに関しては、該当する会社または組織に直接お問い合わせください。

OPEN LOOK および Sun Graphical User Interface は、米国 Sun Microsystems 社が自社のユーザおよびライセンス実施権者向けに開発しました。米国 Sun Microsystems 社は、コンピュータ産業用のビジュアルまたはグラフィカル・ユーザインタフェースの概念の研究開発における米国 Xerox 社の先駆者としての成果を認めるものです。米国 Sun Microsystems 社は米国 Xerox 社から Xerox Graphical User Interface の非独占的ライセンスを取得しており、このライセンスは米国 Sun Microsystems 社のライセンス実施権者にも適用されます。

DiComboBox ウィジェットと DtSpinBox ウィジェットのプログラムおよびドキュメントは、Interleaf, Inc. から提供されたものです。(© 1993 Interleaf, Inc.)

本書は、「現状のまま」をベースとして提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定されず、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も行われぬものとします。

本製品が、外国為替および外国貿易管理法 (外為法) に定められる戦略物資等 (貨物または役務) に該当する場合、本製品を輸出または日本国外へ持ち出す際には、サン・マイクロシステムズ株式会社の事前の書面による承諾を得ることのほか、外為法および関連法規に基づく輸出手続き、また場合によっては、米国商務省または米国所轄官庁の許可を得ることが必要です。

原典: GNOME 2.2 Desktop on Linux System Administration Guide

Part No: 817-3909-10

Revision A



031105@6671



# 目次

---

はじめに	7
<b>1 GConf の使用方法</b>	<b>11</b>
GConf の概要	11
GConf リポジトリ	12
GConf 構成ソース	13
GConf スキーマ	14
GConf スキーマ定義ファイル	15
GConf デーモン	15
GConf コマンドラインツール	16
設定値の設定	19
一般的な環境の設定	20
HTTP プロキシの設定	20
ワークスペース数の設定	20
キーボードアクセシビリティの設定	21
キーボードショートカットの設定	21
パネルとパネルオブジェクト設定の実行	21
ルック&フィールの設定	26
フォントの設定	26
背景の設定を行う	26
スプラッシュイメージの設定	27
デフォルト設定値の復元	27
構成エディタの使用	28
キーの値を変更する	29
キー名をコピーする	29
キーとブックマークの使用	29

<b>2</b>	<b>メニューのカスタマイズ</b>	<b>31</b>
	メニューの概要	31
	ファイル抽象レイヤー	32
	vfolder とメニュー	32
	デスクトップエントリファイル	34
	ディレクトリエントリファイル	35
	メニューの編集	36
	メニューの追加	36
	メニューへの項目の追加	37
	メニューの設定を編集する	38
	メニュー項目を編集する	38
	メニューから項目を削除する	38
	ユーザーが変更できないメニューの設定	39
<b>3</b>	<b>テーマのインストール</b>	<b>41</b>
	テーマの概要	41
	テーマのインデックスファイル	42
	新しいコントロールオプションをインストールする	43
	新しいウィンドウフレームオプションをインストールする	44
	新しいアイコンオプションをインストールする	44
	テーマ用のアイコンのインストール	45
	カスタムコントロールオプションを作成する	46
<b>4</b>	<b>MIME タイプ</b>	<b>47</b>
	MIME タイプの概要	47
	ファイルの MIME タイプの検出	48
	ファイルタイプ検索ツール	48
	パターンマスク	49
	MIME タイプレジストリ	50
	MIME タイプのためのアプリケーションの登録	52
	GNOME デスクトップへのアプリケーションの追加	54
<b>5</b>	<b>GDM の構成</b>	<b>55</b>
	GDM の概要	55
	GDM の構成	55
	一般的な設定	56
	標準 GNOME ログイン画面の設定	57

	グラフィカルログイン画面の設定	58
	セキュリティ設定	59
	XDMCP の設定	60
	新しいセッションへのログイン	61
<b>6</b>	<b>スクリーンセーバーの設定</b>	<b>63</b>
	スクリーンセーバーの概要	63
	スクリーンセーバーの設定	63
	スクリーンセーバーディスプレイの変更	64
<b>7</b>	<b>セッション管理</b>	<b>67</b>
	セッションの概要	67
	セッションのデフォルトの設定	68
<b>8</b>	<b>ヘルプシステム</b>	<b>69</b>
	概要	69
	OMF ファイル	69
	ScrollKeeper カタログ作成システム	70
<b>9</b>	<b>パフォーマンスの改善</b>	<b>71</b>
	パフォーマンスの改善の概要	71
	CPU 使用率の低減	71
	CPU リソースをあまり必要としないテーマオプションを使用する	72
	メニュー上のアイコンをオフにして CPU 使用率を減らす	73
	スプラッシュ画面をオフにして CPU 使用率を減らす	73
	パネルアニメーションをオフにして CPU 使用率を減らす	74
	ファイルマネージャのパフォーマンスの改善	74
	X ウィンドウシステムのネットワークトラフィックの低減	77
	ネットワークトラフィックの少ないテーマオプションを使用する	77
	メニュー上のアイコンをオフにしてネットワークトラフィックを減らす	77
	色の使用を減らして表示品質を改善	78
	websafe カラーパレットを使用するテーマオプションを使用する	78
	メニュー上のアイコンをオフにして色の使用を減らす	79
	スプラッシュ画面をオフにして色の使用を減らす	79
	背景に単一色を使用して色の使用を減らす	79
	ヘルプのパフォーマンスの改善	79

**A 隠しディレクトリ 83**

用語集 87

索引 91

# はじめに

---

GNOME 2.2 システム管理 (*Linux* 版)は、Linux オペレーティングシステム上で GNOME 2.2 デスクトップを実行するシステムの管理方法を説明します。

---

## 対象読者

このマニュアルは、GNOME 2.2 デスクトップを実行する 1 つまたは複数のシステムの管理者を対象にしています。GNOME 2.2 デスクトップの使用方法については、『GNOME 2.2 ユーザーズガイド (*Linux* 版)』を参照してください。

---

## このマニュアルをお読みになる前に

このマニュアルを読む前に、以下のトピックについて知っておく必要があります。

- UNIX® システム管理
- XML (Extensible Markup Language) ファイルの構造
- システム管理を行う上での XML ファイルの使用方法

---

## 内容の紹介

このマニュアルの構成は次のとおりです。

- 第1章は、GConfを使用したユーザー設定の管理方法について説明しています。
- 第2章は、メニューの実装およびメニューのカスタマイズ方法について説明しています。
- 第3章は、GNOME デスクトップで利用可能なテーマの種類、テーマのインストール方法、およびカスタムテーマの作成方法について説明しています。
- 第4章は、アプリケーションがどのように MIME タイプを検出するかを説明しています。また、MIME タイプの登録方法、および GNOME デスクトップへのアプリケーションの追加方法についても説明しています。
- 第5章は、GDM の設定方法について説明しています。
- 第6章は、スクリーンセーバーを設定する方法について説明しています。この章では、スクリーンセーバーに利用可能なディスプレイの変更方法についても説明します。
- 第7章は、セッション管理の概要と、セッションのデフォルトを設定する方法について説明しています。また、セッションとログインスクリプトに関する情報も提供します。
- 第8章は、GNOME デスクトップのヘルプシステムについて説明しています。
- 第9章は、GNOME デスクトップのパフォーマンスを改善する方法について説明しています。
- 付録 A は、GNOME デスクトップがユーザーのホームディレクトリに追加する隠しディレクトリについて説明しています。
- 用語集 は、このマニュアルで使用される用語の定義を説明しています。

---

## Sun のオンラインマニュアル

docs.sun.com では、Sun が提供しているオンラインマニュアルを参照することができます。マニュアルのタイトルや特定の主題などをキーワードとして、検索を行うこともできます。URL は、<http://docs.sun.com> です。

## 表記上の規則

このマニュアルでは、次のような字体や記号を特別な意味を持つものとして使用します。

表 P-1 表記上の規則

字体または記号	意味	例
AaBbCc123	コマンド名、ファイル名、ディレクトリ名、画面上のコンピュータ出力、コード例を示します。	<code>.login</code> ファイルを編集します。 <code>ls -a</code> を使用してすべてのファイルを表示します。 <code>system%</code>
<b>AaBbCc123</b>	ユーザーが入力する文字を、画面上のコンピュータ出力と区別して示します。	<code>system% <b>su</b></code> <code>password:</code>
<i>AaBbCc123</i>	変数を示します。実際に使用する特定の名前または値で置き換えます。	ファイルを削除するには、 <code>rm filename</code> と入力します。
『』	参照する書名を示します。	『コードマネージャ・ユーザーズガイド』を参照してください。
「」	参照する章、節、ボタンやメニュー名、強調する単語を示します。	第5章「衝突の回避」を参照してください。 この操作ができるのは、「スーパーユーザー」だけです。
\	枠で囲まれたコード例で、テキストがページ行幅を超える場合に、継続を示します。	<code>sun% <b>grep</b> `^#define` \</code> <code><b>XV_VERSION_STRING</b></code>

コード例は次のように表示されます。

### ■ C シェル

```
machine_name% command y|n [filename]
```

### ■ C シェルのスーパーユーザー

```
machine_name# command y|n [filename]
```

### ■ Bourne シェルおよび Korn シェル

```
$ command y|n [filename]
```

### ■ Bourne シェルおよび Korn シェルのスーパーユーザー

```
# command y|n [filename]
```

[ ] は省略可能な項目を示します。上記の例は、*filename* は省略してもよいことを示しています。

| は区切り文字 (セパレータ) です。この文字で分割されている引数のうち 1 つだけを指定します。

キーボードのキー名は英文で、頭文字を大文字で示します (例: Shift キーを押します)。ただし、キーボードによっては Enter キーが Return キーの動作をします。

ダッシュ (-) は 2 つのキーを同時に押すことを示します。たとえば、Ctrl-D は Control キーを押したまま D キーを押すことを意味します。

---

## 一般規則

- このマニュアルでは、英語環境での画面イメージを使っています。このため、実際に日本語環境で表示される画面イメージとこのマニュアルで使っている画面イメージが異なる場合があります。本文中で画面イメージを説明する場合には、日本語のメニュー、ボタン名などの項目名と英語の項目名が、適宜併記されています。
- このマニュアルでは、「x86」という用語は、Intel 32 ビット系列のマイクロプロセッサチップ、および AMD が提供する互換マイクロプロセッサチップを意味します。

## 第 1 章

---

# GConf の使用方法

---

この章では、GConf を使用してユーザの設定を管理する方法について説明します。また、設定エディタ の使用方法についても説明があります。

- 11 ページの「GConf の概要」
- 12 ページの「GConf リポジトリ」
- 15 ページの「GConf デーモン」
- 16 ページの「GConf コマンドラインツール」
- 19 ページの「設定値の設定」
- 20 ページの「一般的な環境の設定」
- 26 ページの「ルック&フィールの設定」
- 27 ページの「デフォルト設定値の復元」
- 28 ページの「構成エディタの使用」

---

## GConf の概要

GConf を使用すると、GNOME デスクトップユーザ設定の管理が簡単になります。システム管理者は、GConf を使用して次のことが可能になります。

- すべてのユーザーの特定の設定に必須値を設定する。システム管理者はこの方法で、ユーザーが特定の設定を更新できるかどうかを制御できます
- すべてのユーザーの特定の設定にデフォルト値を設定する
- 設定の定義ファイルで指定されている設定の推奨値を使用する
- 各設定に関するマニュアルを読む

設定値がローカルに、またはネットワークを介して変更されると、GConf はアプリケーションに設定値の変更を通知します。このため、設定を変更すると、その設定を使用するすべてのアプリケーションが直ちに更新されます。

GConf には、次のコンポーネントがあります。

- ユーザー設定のリポジトリ
- gconfd-2 デーモン
- gconftool-2 コマンドラインツール

---

## GConf リポジトリ

GConf リポジトリ内の各設定は、キーと値のペアで構成されます。GConf 設定キーは、アプリケーション設定に対応するリポジトリ内の要素です。たとえば、`/apps/gnome-session/options/show_splash_screen` 設定キーは、セッション設定ツールの「ログイン時にスプラッシュ画面を表示する」オプションに対応します。GNOME デスクトップのユーザーインターフェイスには、GConf リポジトリ内のすべての設定キーが含まれるわけではありません。たとえば、Panel 設定ツールには `/apps/panel/global/tooltips_enabled` キーに対応するオプションは含まれていません。

リポジトリは、単純な階層のファイルシステムとして構成されています。リポジトリには、次のものが含まれます。

- GConf リポジトリを使用するアプリケーションに対応するディレクトリ。たとえば、このファイルシステムに、ディレクトリ `/apps/metacity` が含まれます。
- 設定のカテゴリに対応するサブディレクトリ。たとえば、このファイルシステムに、ディレクトリ `/apps/metacity/general` が含まれます。
- ディレクトリ内の設定キーの一覧、およびそのキーに関する情報を含む特殊ファイル。たとえば、HTTP プロキシ設定に関連するキーについての情報を持つファイルは、ディレクトリ `/system/http_proxy` にあります。
- すべての設定キーを記述するファイルを含む `/schemas` ディレクトリ。

通常、設定キーは、文字列、整数、または文字列と整数のリストなどの単純な値を持ちます。リポジトリ内の設定キーの形式は、リポジトリの読み取りに使用されるバックエンドモジュールに依存します。以下は、リポジトリの読み取りに XML (Extensible Markup Language) が使用される場合の `/desktop/gnome/interface/font_name` 設定キーの例です。

```
<entry name="font_name" mtime="1038323555" muser="user123" type="string">
<stringvalue>Sans 10</stringvalue></entry>
```

---

注 - このマニュアルでは、設定キーを示すときに、キーの名前とそのパスを示します。たとえば、`/desktop/gnome/interface` サブディレクトリ内の `font_name` 設定キーは、`/desktop/gnome/interface/font_name` と示されます。

---

## GConf 構成ソース

GConf リポジトリは、「構成ソース」と呼ばれる一連の保存場所を含んでいます。構成ソースは、「GConf パスファイル」に記述されます。GConf パスファイルの場所は、`/etc/gconf/gconf-version-number/path` です。各ユーザーは、パスファイルを持っています。パスファイル内の各行は、次の情報を指定します。

- リポジトリの読み取りに使用するバックエンドモジュール
- リポジトリのアクセス権
- リポジトリの場所

デフォルトでは、GConf パスファイルの内容は以下のようになります。

```
xml:readonly:/etc/gconf/gconf.xml.mandatory
include "${HOME}/.gconf.path"
xml:readwrite:${HOME}/.gconf
xml:readonly:/etc/gconf/gconf.xml.defaults
```

GConf が設定値を検索する場合、GConf は、パスファイル内で指定された順に構成ソースを読みます。以下の表は、パスファイル内の構成ソースです。

構成ソース	説明
必須	この構成ソースのアクセス権は、読み取り専用で設定されません。ユーザーは、このソースの値を上書きすることができません。したがって、そのソースの設定は必須です
ユーザー	この構成ソースは、ユーザーのホームディレクトリ内の <code>.gconf</code> ディレクトリに格納されます。ユーザーが環境を設定すると、新しい設定情報がこの場所に追加されます ユーザ構成ソースは、構成エディタで変更できます。
デフォルト	この構成ソースには、デフォルトの設定が含まれています

パスファイル内の構成ソースの順序では、必須の設定がユーザーの設定よりも優先されます。また、デフォルト設定よりもユーザーの設定が優先されます。つまり、GConf は、次の優先順位で設定を適用します。

1. 必須の設定
2. ユーザー指定の設定
3. デフォルトの設定

ユーザーは、GConf パスファイル内の `include` 指示を使って、別の構成ソースを使用できます。別の構成ソースを使用するには、ユーザーは、構成ソースの場所を指定する必要があります。ユーザーは、構成ソースの場所をホームディレクトリ内の `.gconf.path` というファイルに指定します。

## GConf スキーマ

「GConf スキーマ」は、「GConf スキーマキー」と「GConf スキーマオブジェクト」の総称です。以下の表は、スキーマキー、スキーマオブジェクト、およびこれらの項目と設定キーとの関連性について説明しています。

項目	説明
設定キー	アプリケーション設定に対応する GConf リポジトリ内の要素
スキーマキー	設定キー用のスキーマオブジェクトを格納するキー
スキーマオブジェクト	以下のような設定キー用の情報を含む構成ソース内の要素 <ul style="list-style-type: none"><li>■ 設定キーを使用するアプリケーションの名前</li><li>■ 設定キーに必要な値の型 (たとえば、整数、int、bool など)</li><li>■ 設定キーのデフォルト値</li><li>■ 設定キーについての簡単な記述</li></ul>

以下の表は、設定キー、スキーマキー、およびスキーマオブジェクトの例を示しています。

項目	例
設定キー	/desktop/gnome/interface/font_name
スキーマキー	/schemas/desktop/gnome/interface/font_name
スキーマオブジェクト	<pre>&lt;schema&gt; &lt;applyto&gt;/desktop/gnome/interface/font_name&lt;/applyto&gt; &lt;key&gt;/schemas/desktop/gnome/interface/font_name&lt;/key&gt; &lt;owner&gt;gnome&lt;/owner&gt; &lt;type&gt;string&lt;/type&gt; &lt;default&gt;Sans 10&lt;/default&gt; &lt;locale name="C"&gt;   &lt;short&gt;Default font&lt;/short&gt;   &lt;long&gt;Name of the default font used by gtk+.&lt;/long&gt; &lt;/locale&gt; &lt;/schema&gt;</pre>

設定キーにスキーマキーを関連付けることができます。たとえば、/desktop/gnome/interface/font\_name キーは次のスキーマキーを含んでいます。

```
<entry name="font_name" mtime="1034873859"
schema="/schemas/desktop/gnome/interface/font_name"/>
```

設定キーにスキーマキーを関連付けると、設定は、そのスキーマキーのスキーマオブジェクト内で指定されている推奨値を使用します。推奨値は、スキーマオブジェクトの <default> 要素に含まれています。デフォルトでは、デフォルト構成ソース内のすべての設定キーが、スキーマキーと関連付けられます。

通常、スキーマはデフォルト構成ソースに格納されます。

## GConf スキーマ定義ファイル

スキーマは、「スキーマ定義ファイル」から生成されます。スキーマ定義ファイルは、特定のアプリケーションにおけるすべてのキーの特性を定義します。スキーマ定義ファイルには、`.schemas` 拡張子が付きます。

スキーマ定義ファイルは、`/etc/gconf/schemas` ディレクトリに含まれています。スキーマ定義ファイルを使用して、新しい構成ソースを作成できます。

いくつかのスキーマ定義ファイルは、GNOME デスクトップのユーザーインターフェイスの一部と緊密に対応しています。たとえば、`system_http_proxy.schemas` は、Internet 設定ツールに対応しています。ほかのスキーマ定義ファイルは、GNOME デスクトップのユーザーインターフェイスにはない設定キーを含んでいます。たとえば、`/apps/panel/global/tooltips_enabled` キーはユーザーインターフェイスにはありません。

GNOME デスクトップのユーザーインターフェイスのいくつかは、複数のスキーマ定義ファイルの設定キーを表す設定を含んでいます。たとえば、Shortcuts 設定ツールは、`panel-global-config.schemas` および `metacity.schemas` ファイルのキーを表す設定を含んでいます。

---

## GConf デーモン

GConf デーモンは、`gconfd-2` です。GConf デーモンは、設定の値が変更されると、アプリケーションに通知します。たとえば、メニューとツールバー設定ツールでツールバーのアイコンのみを表示するように選択するとします。設定ツールでこのオプションを選択すると、直ちに、開いているすべてのアプリケーションのツールバーが更新されます。GConf デーモンは、ローカルでも、ネットワークを介してでも動作することができます。

GConf デーモンのインスタンスは、各ユーザーごとに起動されます。GConf デーモンは、認証やデータ機密保護などの複雑な問題を処理する必要がありません。GConf デーモンは、起動するときにGConf パスファイルを読み取ります。GConf デーモンは、アプリケーションと構成ソース間のすべてのアクセスを管理します。

アプリケーションが設定キーの値を要求すると、デーモンは次のようにして構成ソースを検索します。

1. パスファイルに指定された順に、各構成ソース内の設定キーの値を検索します。値が見つかると、その値を返します。
2. 値が見つからない場合は、パスファイルに指定された順に、各構成ソース内の設定キーに対応するスキーマキーを検索します。
3. スキーマキーが見つかると、スキーマキーの値を調べます。
4. スキーマキーの値がスキーマオブジェクトの場合、そのスキーマオブジェクトの <default> 要素内の推奨値を返します。

GConf デーモンは、設定キーの値をキャッシュに入れます。すべてのアプリケーションがこのキャッシュを使用するため、アプリケーションが構成ソースにアクセスするのは一度だけです。

GConf デーモンを終了するには、次のコマンドを実行します。

```
# gconftool-2 --shutdown
```

---

## GConf コマンドラインツール

GConf は、コマンドラインツールの `gconftool-2` を含んでいます。`gconftool-2` コマンドを使用して、次の作業を実行できます。

- キーの値を設定する
- キーの値を表示する
- アプリケーションをインストールするときに、スキーマ定義ファイルからスキーマをインストールする

たとえば、次のコマンドを使用して `/desktop/gnome` ディレクトリおよびサブディレクトリ内のすべてのキー値を表示することができます。

```
# gconftool-2 --recursive-list /desktop/gnome
```

表 1-1 は、`gconftool-2` コマンドに使用できるオプションを示しています。

表 1-1 gconftool-2 コマンドオプション

オプション	機能
<code>--all-dirs</code>	指定したディレクトリ内のすべてのサブディレクトリをリストする
<code>--all-entries</code>	指定したディレクトリ内のすべてのキー値を表示する

表 1-1 gconftool-2 コマンドオプション (続き)

オプション	機能
<code>--config-source=configuration-source</code>	<code>--direct</code> オプションと共に使用して、使用する構成ソースを指定する。このオプションで構成ソースを指定しない場合、パスファイル内のすべての構成ソースでコマンドが実行される
<code>--direct</code>	<code>--config-source</code> オプションと共に使用して、構成ソースに直接アクセスする。このオプションを使用する場合、GConf はサーバーを省略する。このオプションを使用する前に、GConf デーモンの <code>gconfd-2</code> が実行されていないことを確認する必要がある
<code>--dump</code>	ユーザが指定した GConf リポジトリディレクトリ内に、すべての設定キーを含む一覧を生成する。一覧には、すべてのキーの XML 記述が含まれる。一覧は、 <code>&lt;gconfentryfile&gt;</code> 要素に含まれる。  たとえば、このオプションからの出力をリダイレクトして、ユーザのパネル構成に関係のあるキーをすべて含むファイルを生成できる。このファイルでは <code>--load</code> オプションが使用できる。
<code>--get</code>	指定した設定キーの値を表示する。また、指定したスキーマキーのスキーマオブジェクト内の要素の値も表示する
<code>--help</code>	<code>gconftool-2</code> コマンドに関するヘルプメッセージと、 <code>gconftool-2</code> コマンドに使用できるオプションを表示する
<code>--load=filename</code>	構成ソースの現在のディレクトリ内にある設定キーの値を、指定したファイルの値に設定できる。 <code>&lt;gconfentryfile&gt;</code> 要素にキーの XML 記述を含むファイルを指定すること
<code>--long-desc=description</code>	<code>--set-schema</code> オプションと共に使用して、スキーマキーの長い説明を指定する
<code>--makefile-install-rule</code>	スキーマ定義ファイルをアプリケーションにインストールする
<code>--owner=owner</code>	<code>--set-schema</code> オプションと共に使用して、スキーマキーの所有者を指定する
<code>--recursive-list</code>	指定したディレクトリ内のすべてのサブディレクトリにあるすべての設定キーの値を表示する
<code>--recursive-unset</code>	ディレクトリ内のすべてのサブディレクトリで、ユーザー設定からデフォルト構成ソースの設定までを含む、すべての設定キーの値をリセットする

表 1-1 gconftool-2 コマンドオプション (続き)

オプション	機能
--set	<p>設定キーの値を設定し、その値をユーザー構成ソースに書き込む。--type オプションは --set オプションと共に使用して、設定する値のデータ型を指定する。たとえば、以下のコマンドは、ユーザー構成ソースの /apps/gnome-terminal/profiles/Default/background_color キーの値を設定する</p> <pre># gconftool-2 --set "/apps/gnome-terminal/profiles/Default/background_color" --type string "#000000"</pre> <p>--direct オプションと --config-source オプションを --set オプションと共に使用して、値を別の構成ソースに書き込むこともできる</p>
--set-schema	<p>スキーマキーの属性の値を設定し、その値をデフォルト構成ソースに書き込む</p> <p>次のオプションを --set-schema オプションと共に使用して、更新する属性を指定する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ --type</li> <li>■ --short-desc</li> <li>■ --long-desc</li> <li>■ --owner</li> </ul> <p>次のコマンドは /apps/gnome-terminal/profiles/Default/background_color キーに対して、スキーマキーの短い説明を設定する</p> <pre># gconftool-2 --set-schema "/schemas/apps/gnome-terminal/profiles/Default/background_color" --short-desc "Default background color of terminal"</pre>
--short-desc= <i>description</i>	--set-schema オプションと共に使用して、スキーマキーの短い説明を指定する
--shutdown	GConf デーモンを終了する
--type= <i>data-type</i>	<p>設定キーの値を設定する場合にデータ型を指定する。スキーマキーの属性値を設定する場合にもこのオプションを使用できる。以下のような有効なデータ型がある</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ bool</li> <li>■ float</li> <li>■ int</li> <li>■ list</li> <li>■ pair</li> <li>■ string</li> </ul>

表 1-1 gconftool-2 コマンドオプション (続き)

オプション	機能
<code>--unset</code>	ユーザー設定からデフォルト構成ソースの設定までを含む、設定キーの値をリセットする
<code>--usage</code>	<code>gconftool-2</code> コマンドに関する簡単なヘルプメッセージと、 <code>gconftool-2</code> コマンドに使用できるオプションを表示する

## 設定値の設定

設定キーに対して、必須値またはデフォルト値を設定できます。ユーザーの必須設定値またはデフォルト設定値を変更する前に、GConf デーモンがどのユーザーに対しても実行されていないことを確認する必要があります。また、すべてのユーザーがログアウトしていることを確認してから、ユーザーの設定値を変更してください。

設定キーの必須値またはデフォルト値を設定するには、`gconftool-2` コマンドを次のように使用します。

```
# gconftool-2 --direct --config-source configuration-source --type data-type --set preference-key value
```

たとえば、`wwwproxy.xyz.com` を必須の HTTP プロキシホストとして設定するには、次のコマンドを実行します。

```
# gconftool-2 --direct --config-source
xml:readwrite:/etc/gconf/gconf.xml.mandatory --type string --set
/system/http_proxy/host wwwproxy.xyz.com
```

ユーザーは、この設定値を変更できません。

`gconftool-2` コマンドを使用して、デフォルト値を設定することもできます。たとえば、ワークスペースのデフォルト数を 5 に設定するには、次のコマンドを実行します。

```
# gconftool-2 --direct --config-source
xml:readwrite:/etc/gconf/gconf.xml.defaults --type int --set
/apps/metacity/general/num_workspaces 5
```

ユーザーは、この設定値を変更できます。



注意 - ユーザーの必須設定値またはデフォルト設定値を変更する前に、すべてのユーザーがログアウトしていることを確認してください。

---

## 一般的な環境の設定

この節では、必須値またはデフォルト値を一般的な設定に割り当てる方法を説明します。

### HTTP プロキシの設定

HTTP プロキシを設定するには、`/system/http_proxy/` の設定キーの値を変更します。たとえば、HTTP プロキシホストに必須値を設定するには、次のコマンドを実行します。

```
# gconftool-2 --direct --config-source
xml:readwrite:/etc/gconf/gconf.xml.mandatory --type string --set
/system/http_proxy/host proxy-name
```

HTTP プロキシホストにデフォルト値を設定するには、次のコマンドを実行します。

```
# gconftool-2 --direct --config-source
xml:readwrite:/etc/gconf/gconf.xml.defaults --type string --set
/system/http_proxy/host proxy-name
```

ほかの HTTP プロキシ関連の環境を設定することもできます。ほかの HTTP プロキシ設定に関する情報については、`system_http_proxy.schemas` スキーマ定義ファイルを参照してください。

### ワークスペース数の設定

ワークスペースの必須の数を設定するには、次のコマンドを使用します。

```
# gconftool-2 --direct --config-source
xml:readwrite:/etc/gconf/gconf.xml.mandatory --type int --set
/apps/metacity/general/num_workspaces integer
```

ワークスペースのデフォルトの数を設定するには、次のコマンドを使用します。

```
# gconftool-2 --direct --config-source
xml:readwrite:/etc/gconf/gconf.xml.defaults --type int --set
/apps/metacity/general/num_workspaces integer
```

ほかのウィンドウマネージャの環境を設定することもできます。ほかのウィンドウマネージャの設定に関する情報については、`metacity.schemas` スキーマ定義ファイルを参照してください。

## キーボードアクセシビリティの設定

キーボードアクセシビリティを設定するには、`/desktop/gnome/accessibility/keyboard` の設定キーの値を変更します。たとえば、キーボードアクセシビリティ機能が有効になるように必須値を設定したい場合は、次のコマンドを実行します。

```
# gconftool-2 --direct --config-source
xml:readwrite:/etc/gconf/gconf.xml.mandatory --type bool --set
/desktop/gnome/accessibility/keyboard/enable true
```

この設定にデフォルト値を設定するには、次のコマンドを実行します。

```
# gconftool-2 --direct --config-source
xml:readwrite:/etc/gconf/gconf.xml.defaults --type bool --set
/desktop/gnome/accessibility/keyboard/enable false
```

ほかのキーボードアクセシビリティ環境を設定することもできます。ほかのキーボードアクセシビリティ設定に関する情報については、`desktop_gnome_accessibility_keyboard.schemas` スキーマ定義ファイルを参照してください。

## キーボードショートカットの設定

キーボードショートカット設定を行うには、`/apps/metacity/global_keybindings` にある設定キーの値を変更します。たとえば、「アプリケーションの実行」ダイアログを開くときに、ユーザーが `Alt + F3` キーボードショートカットのみを使用するように設定したい場合があります。この必須値を設定するには、次のコマンドを実行します。

```
# gconftool-2 --direct --config-source
xml:readwrite:/etc/gconf/gconf.xml.mandatory --type string --set
/apps/metacity/global_keybindings '<Alt>F3'
```

ほかのキーボードショートカット環境を設定することもできます。ほかのキーボードショートカットの設定に関する情報については、`metacity.schemas` スキーマ定義ファイルを参照してください。

## パネルとパネルオブジェクト設定の実行

`panel-default-setup.entries` ファイルは、GNOME デスクトップ内のパネルについて、次の内容を指定します。

- パネルの数
- パネルのタイプ
- パネルのプロパティ

## ■ パネルの内容

パネルおよびパネルオブジェクトを個別に設定するのは、複雑な作業になります。パネルやパネルオブジェクトを個別に設定するには、まず `panel-default-setup.entries` ファイルの構造を理解する必要があります。`panel-default-setup.entries` の詳細については、次の節を参照してください。

パネルおよびパネルオブジェクトの環境を個別に設定するには、構成ソース内の多数の設定値を設定する必要があります。パネル設定の値を設定する一番簡単な方法は、`--dump` および `--load` オプションを指定して、`gconftool-2` コマンドを使用することです。パネルおよびパネルオブジェクトの設定方法の詳細については、24 ページの「パネルおよびパネルオブジェクトの環境を個別に設定」を参照してください。

## パネルおよびパネルオブジェクトの個別指定

`panel-default-setup.entries` ファイルには、パネルおよびパネルの内容を指定する部分があります。また `panel-default-setup.entries` ファイルは、スキーマキーの値を指定します。`panel-default-setup.entries` ファイルは、`/etc/gconf/schemas` ディレクトリ内にあります。

`panel-default-setup.entries` ファイルの構造は、以下のとおりです。

1. GNOME デスクトップ内のパネル、アプレット、およびその他のパネルオブジェクトの一般的な構造を指定するキー。以下のキーが、GNOME デスクトップ内に表示されるパネル、パネルオブジェクト、およびアプレットの数を指定します。

- `/apps/panel/default_setup/general/toplevel_id_list`
- `/apps/panel/default_setup/general/object_id_list`
- `/apps/panel/default_setup/general/applet_id_list`

これらのキーは、各パネル、パネルオブジェクト、およびアプレットに識別子も割り当てます。たとえば、以下の `panel-default-setup.entries` のサンプルでは、GNOME デスクトップに表示されるパネルは1つです。

```
<entry>
  <key>toplevel_id_list</key>
  <schema_key>/schemas/apps/panel/general/toplevel_id_list</schema_key>
  <value>
    <list type="string">
      <value>
        <string>bottom_panel</string>
      </value>
    </list>
  </value>
</entry>
```

panel-default-setup.entries ファイルでは、識別子 bottom\_panel がボトムエッジパネルを識別します。

2. パネルのプロパティを指定するキー。パネル設定キーは、次のように構成されています。

```
/apps/panel/default_setup/toplevels/panel-name/panel-property-key
```

たとえば、キー

```
/apps/panel/default_setup/toplevels/bottom_panel/size
```

 は、ボトムパネルのサイズを指定します。

3. パネルオブジェクト、パネルオブジェクトプロパティ、およびオブジェクトが存在するパネルを指定するキー。たとえば、以下の panel-default-setup.entries のサンプルでは、メインメニューオブジェクトがボトムパネルの左側に表示されます。

```
<entrylist base="/apps/panel/default_setup/objects/main_menu">
  <entry>
    <key>object_type</key>
    <schema_key>/schemas/apps/panel/objects/object_type</schema_key>
    <value>
      <string>menu-object</string>
    </value>
  </entry>
  <entry>
    <key>toplevel_id</key>
    <schema_key>/schemas/apps/panel/objects/toplevel_id</schema_key>
    <value>
      <string>bottom_panel</string>
    </value>
  </entry>
  <entry>
    <key>position</key>
    <schema_key>/schemas/apps/panel/objects/position</schema_key>
    <value>
      <int>0</int>
    </value>
  </entry>
  .
  .
  .
</entrylist>
```

4. アプレット、アプレット設定、およびアプレットが存在するパネルを指定するキー。たとえば、以下の panel-default-setup.entries のサンプルでは、Window List アプレットがボトムパネルに表示されます。

```
<entrylist base="/apps/panel/default_setup/applets/window_list">
  <entry>
    <key>object_type</key>
```

```

    <schema_key>/schemas/apps/panel/objects/object_type</schema_key>
    <value>
      <string>bonobo-applet</string>
    </value>
  </entry>
</entry>
<entry>
  <key>toplevel_id</key>
  <schema_key>/schemas/apps/panel/objects/toplevel_id</schema_key>
  <value>
    <string>bottom_panel</string>
  </value>
</entry>
<entry>
  <key>position</key>
  <schema_key>/schemas/apps/panel/objects/position</schema_key>
  <value>
    <int>2</int>
  </value>
</entry>
.
.
.
<entry>
  <key>bonobo_iid</key>
  <schema_key>/schemas/apps/panel/objects/bonobo_iid_type</schema_key>
  <value>
    <string>OAFIID:GNOME_WindowListApplet</string>
  </value>
</entry>
</entrylist>

```

OAFIID は、アプレットの一意の識別子です。特定のアプレットの OAFIID を検索するには、`/usr/lib/bonobo/servers` ディレクトリ内にあるそのアプレットの `.server` ファイルを参照します。たとえば、以下の `GNOME_Wncklet_Factory.server` の抜粋では、Window List アプレットの OAFIID が示されます。

```

<oaf_server iid="OAFIID:GNOME_WindowListApplet"
type="factory" location="OAFIID:GNOME_Wncklet_Factory">

```

## パネルおよびパネルオブジェクトの環境を個別に設定

パネルやパネル内のオブジェクトの設定を行うには、次の手順を実行します。

1. GNOME セッションにログインし、必要に応じてパネルを設定します。

2. `--dump` オプションを指定して `gconftool-2` コマンドラインツールを使用し、お使いのパネル構成の XML 記述を含むファイルを作成します。`--dump` オプションは、ユーザが指定した GConf リポジトリディレクトリ内にあるすべての設定キーを含む一覧を作成します。

たとえば、以下のコマンドはデフォルトパネル構成の XML 記述を `my-panel-setup.entries` というファイルに作成します。

```
# gconftool-2 --dump /apps/panel/profiles/default> my-panel-setup.entries
```

3. `my-panel-setup.entries` ファイルをテキストエディタで開き、必要に応じて修正します。

たとえば、デスクトップエントリファイルの場所を変更したりします。以下に、`--dump` オプションで生成されたファイルの抜粋を示します。

```
<entry>
  <key>objects/object_16/launcher_location</key>

  <schema_key>/schemas/apps/panel/objects/launcher_location</schema_key>
  <value>
    <string>hadjaha-00adce02f7.desktop</string>
  </value>
</entry>
```

上のサンプルで、`hadjaha-00adce02f7.desktop` への参照を、広く使用可能な別のデスクトップエントリファイルに変更することも考えられます。

`--dump` オプションでパネル構成を生成すると、パネルオブジェクトの位置は絶対的な位置になります。パネルオブジェクトの位置を絶対的な位置から相対的な位置に変更したい場合もあります。パネルの一番左端のオブジェクトの `position` 値は 0 です。その次のオブジェクトの `position` 値は 1 という具合になっています。オブジェクトをパネルの右側と相対する位置に置くには、`right_stick` キーを `true` に設定します。

4. `--load` オプションを指定して `gconftool-2` コマンドラインツールを使用し、デフォルトの構成ソースの値を `my-panel-setup.entries` ファイル内の値に設定します。たとえば、以下のコマンドは、デフォルトの構成ソースのキー値を `my-panel-setup.entries` 内の対応するキーの値に設定します。

```
# gconftool-2 --direct --config-source
xml:readwrite:/etc/gconf/gconf.xml.defaults --load my-panel-setup.entries
```

---

## ルック&フィールの設定

この節では、ルック&フィールの設定に必須値またはデフォルト値を割り当てる方法を説明します。

### フォントの設定

フォントを設定するには、2つの設定キーの値を変更します。以下の表は、変更するキーと、そのキーに対応するユーザーインターフェイス部分を示しています。

GConf の場所	ユーザーインターフェイスコンポーネント
/desktop/gnome/interface/font_name	フォント設定ツールの「アプリケーション用フォント」オプション
/apps/nautilus/preferences/desktop_font	フォント設定ツールの「デスクトップ用フォント」オプション

たとえば、Sans 12 を必須アプリケーション用フォントとして設定するには、次のコマンドを実行します。

```
# gconftool-2 --direct --config-source
xml:readwrite:/etc/gconf/gconf.xml.mandatory --type string --set
/desktop/gnome/interface/font_name "Sans 12"
```

palatino 12 をデフォルトのデスクトップオブジェクト用フォントとして設定するには、次のコマンドを実行します。

```
# gconftool-2 --direct --config-source
xml:readwrite:/etc/gconf/gconf.xml.defaults --type string --set
/apps/nautilus/preferences/desktop_font "palatino 12"
```

### 背景の設定を行う

デスクトップ背景の設定を行うには、/desktop/gnome/background にある設定キーの値を変更します。たとえば、背景に必須イメージを設定するには、次のコマンドを実行します。

```
# gconftool-2 --direct --config-source
xml:readwrite:/etc/gconf/gconf.xml.mandatory --type string --set
/desktop/gnome/background/picture_filename filename.png
```

この設定にデフォルト値を設定するには、次のコマンドを実行します。

```
# gconftool-2 --direct --config-source
xml:readwrite:/etc/gconf/gconf.xml.defaults --type string --set
/desktop/gnome/background/picture_filename filename.png
```

ほかの背景を設定することもできます。ほかの背景設定に関する情報については、`desktop_gnome_background.schemas` スキーマ定義ファイルを参照してください。

## スプラッシュイメージの設定

スプラッシュイメージを設定するには、`/apps/gnome-session/options/` の設定キーの値を変更します。たとえば、スプラッシュイメージを表示しないように設定するには、必須値を次のように設定します。

```
# gconftool-2 --direct --config-source
xml:readwrite:/etc/gconf/gconf.xml.mandatory --type bool --set
/apps/gnome-session/options/show_splash_screen false
```

この設定にデフォルト値を設定するには、次のコマンドを実行します。

```
# gconftool-2 --direct --config-source
xml:readwrite:/etc/gconf/gconf.xml.defaults --type bool --set
/apps/gnome-session/options/show_splash_screen false
```

ほかのスプラッシュイメージを設定することもできます。ほかのスプラッシュイメージ設定に関する情報については、`gnome-session.schemas` スキーマ定義ファイルを参照してください。

---

## デフォルト設定値の復元

ユーザーのデフォルト設定値を復元するには、次のコマンドを実行します。

```
# gconftool-2 --direct --config-source user-configuration-source --
recursive-unset
```

`user-configuration-source` は、ユーザーのホームディレクトリにある `.gconf` ディレクトリ内の構成ソースに置き換えます。

このコマンドは、すべてのサブディレクトリで、ユーザー設定からデフォルト構成ソースの設定までを含むすべての設定キーの値をリセットします。

## 構成エディタの使用

構成エディタを使用すると、次の操作を実行できます。

- ユーザの構成ソース内のキー値の変更
- ユーザの構成ソース内のキーに関するマニュアルの表示

設定エディタを開くには、「アプリケーション」、「System Tools」、「設定エディタ」の順に選択します。図 1-1 に、設定エディタウィンドウを示します。



図 1-1 設定エディタウィンドウ

設定エディタウィンドウには、以下の区画があります。

- ツリー区画      GConf レポジトリ内のディレクトリおよびサブディレクトリに移動できます。この区画では、変更区画で変更するキーを表示します。ツリー区画は、ウィンドウの左側にあります。
- 変更区画      選択された GConf レポジトリディレクトリ内のキーを表示します。この区画では、変更するキーを選択し、キーの値を変更します。変更区画は、ウィンドウの右上部分にあります。

変更区画のキーの横にあるアイコンは、選択したキーに対して入力できる値の型を示しています。たとえば、`/system/http_proxy/use_http_proxy` キーの横のチェックマークアイコンは、このキーに対してブール型の値を入力できることを示しています。

またアイコンは、キーの値を編集できるかどうかを示します。たとえば、スキーマキーの横の鍵のアイコンは、キーの値を変更できないことを示しています。

**マニュアル区画** 現在選択されているキーのマニュアルを表示します。この区画では、GConf 設定キーに関する詳細情報を参照します。

別のアプリケーションにペーストするために、キーの名前をコピーできます。キーにブックマークを追加することも可能です。

次の節では、構成エディタの使用方法について説明します。

## キーの値を変更する

キーの値を変更するには、次の手順を実行します。

1. ツリー区画で、変更区画で変更するキーを表示します。
2. 変更するキーを選択します。
3. 整数キーまたは文字列キーの値を変更するには、そのキーの「値」列をクリックします。新しいキー値を入力します。  
ブールキーの値を変更するには、そのキーの「値」列をクリックします。

## キー名をコピーする

キー名をコピーするには、変更区画で名前をコピーするキーを選択します。「編集」、「キーの名前をコピー」の順に選択します。必要であれば、そのキー名を別のアプリケーションにペーストできます。

## キーとブックマークの使用

ブックマークのキーにアクセスするには、「ブックマーク」メニューからそのキーを選択します。キーは、「ブックマーク」メニューに追加できます。

## ブックマークを追加する

ブックマークを追加するには、ブックマークを追加するキーを変更区画で選択します。「ブックマーク」→「追加」を選択します。

## ブックマークを削除する

ブックマークを削除するには、「ブックマーク」、「ブックマークを編集」の順に選択します。「ブックマークを編集」ダイアログが表示されます。ダイアログ内のブックマークを選択し、「削除」をクリックします。

## 第 2 章

---

# メニューのカスタマイズ

---

この章では、GNOME デスクトップがどのようにメニューを実装するか、また管理者はどのようにメニューをカスタマイズできるか説明します。

- 31 ページの「メニューの概要」
- 32 ページの「ファイル抽象レイヤー」
- 32 ページの「vfolder とメニュー」
- 34 ページの「デスクトップエントリファイル」
- 35 ページの「ディレクトリエントリファイル」
- 36 ページの「メニューの編集」
- 39 ページの「ユーザーが変更できないメニューの設定」

---

## メニューの概要

GNOME デスクトップがメニューをどのように実装するかにより、次のことが可能になります。

- 簡単にメニュー階層をカスタマイズできる。メニュー階層は、ファイルシステムの階層構造に基づいていません。メニュー階層は、少数のファイルを編集するだけでカスタマイズできます。アプリケーションを変更したり、ファイルを移動する必要はありません。
- 簡単にアプリケーションをインストールできる。アプリケーションをインストールするときに、メニュー階層に関する情報をアプリケーションに提供する必要はありません。
- ユーザーがメニューを変更できないように設定する。

GNOME デスクトップ上のメニューは、次のコンポーネントを使用します。

- ファイル抽象レイヤー
- Vfolder
- デスクトップエントリファイル

- ディレクトリエントリファイル

---

## ファイル抽象レイヤー

gnome-vfs ファイル抽象レイヤーは、アプリケーションがファイルと相互に作用するための単純で一般的な方法を提供します。また、ファイル抽象レイヤーは、特定のメニュー設定ファイルに対応付ける URI (*Uniform Resource Identifier*) ロケーションを提供します。すべてのユーザー用にメニューまたはメニュー項目を追加するには、そのメニューまたはメニュー項目を URI ロケーションの 1 つに追加する必要があります。項目を追加できるメニューと、そのメニューに対応する URI ロケーションは表 2-1 に示しています。

表 2-1 メニューと URI ロケーション

メニュー	URI ロケーション
すべてのユーザーの「アプリケーション」メニュー	applications-all-users:///
すべてのユーザの「設定」メニュー	preferences-all-users:///

---

## vfolder とメニュー

一般的に、「vfolder」は、システム上の物理的な場所 (1 箇所または複数) に存在する項目の仮想表現になります。たとえば、vfolder が、いくつかのディレクトリの内容を表す場合があります。また vfolder は、1 つまたは複数の物理的な場所の抽象概念になります。GNOME デスクトップのメニューの場合、vfolder は、物理的に複数のディレクトリに置かれている項目のメニュー上の表現になります。

「vfolder 情報ファイル」は、vfolder を説明する XML ファイルです。vfolder 情報ファイルは、メニューの構造を指定します。vfolder 情報ファイルは、メニューの名前と、メニューに表示されるアプリケーションの順序を指定します。vfolder 情報ファイルには、.vfolder-info ファイル拡張子が付きます。

以下に vfolder 情報ファイルの抜粋を示します。

```
<?xml version="1.0"?>
<VFolderInfo>
.
.
.
```

```

<Folder>
  <Name>Applications</Name>
  <Desktop>Applications.directory</Desktop>
  <Folder>
    <Name>Accessories</Name>
    <DontShowIfEmpty/>
    <Desktop>Accessories.directory</Desktop>
    <Query>
      <And>
        <Keyword>Application</Keyword>
        <Keyword>Utility</Keyword>
      </And>
    </Query>
  </Folder>
  .
  .
  .
</Folder>
</VFolderInfo>

```

表 2-2 は、vfolder 情報ファイル内の要素を示しています。

表 2-2 vfolder 情報ファイルの要素

要素	説明
<Folder>	メニューの名前、内容、構造を定義する要素が含まれる
<Name>	メニューの名前を指定する。
<Desktop>	メニューの名前、コメント、アイコンを指定するディレクトリエントリファイルの名前
<Query>	デスクトップエントリファイルに対するクエリー。クエリー要件と一致するデスクトップエントリファイルと、メニュー項目がメニュー上に表示される  上記抜粋内のクエリーでは、Categories キー内にキーワード Application と Utility を含むデスクトップエントリファイルが検索される。一致するデスクトップエントリファイルが「アプリケーション」メニューに表示される  この要素は任意
<DontShowIfEmpty/>	この要素がある場合は、項目を何も含まないメニューは表示されない  この要素は任意

---

## デスクトップエントリーファイル

「デスクトップエントリーファイル」は、メニュー内の項目に関する情報を提供するデータファイルです。デスクトップエントリーファイルは、名前、実行するコマンド、アイコンなどの項目の詳細を指定します。また、デスクトップエントリーファイルには、メニュー階層内での項目の位置を決定するキーワードが含まれています。デスクトップエントリーファイルには、`.desktop` ファイル拡張子が付きます。

以下は、デスクトップエントリーファイルのサンプルです。

```
[Desktop Entry]
Encoding=UTF-8
Name=Calculator
Comment=Perform calculations
Exec=gcalctool
Icon=gcalctool.png
Terminal=false
Type=Application
Categories=GNOME;Application;Utility;
X-GNOME-DocPath=gcalctool/gcalctool.xml
```

表 2-3 は、デスクトップエントリーファイルで最も重要なキーを説明しています。

表 2-3 デスクトップエントリーキー

デスクトップエントリーキー	説明
Encoding	デスクトップエントリーファイルのエンコーディングを指定する
Name	項目の名前を指定する。この名前は、メニュー上の項目として表示される
Comment	項目の短い説明を指定する。コメントは、メニュー上のメニュー項目を指したときにツールチップとして表示される
Exec	メニューから項目を選択したときに実行されるコマンドを指定する
Icon	項目を表すアイコンのファイル名を指定する。ファイル名へのパス、あるいはファイル拡張子は指定しない
Terminal	Exec キーで指定したコマンドを端末で実行するかどうかを指定する。値が <code>true</code> の場合は、コマンドが端末で実行される コマンドを実行するウィンドウを作成しない場合は、このキーの値を <code>true</code> にする必要がある

表 2-3 デスクトップエントリキー (続き)

デスクトップエントリキー	説明
Type	<p>項目のタイプを指定する。次のいずれかを指定する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ Application: アプリケーションを起動する項目の場合はこのオプションを入力</li> <li>■ Link: ファイル、フォルダ、または FTP サイトにリンクする項目の場合はこのオプションを入力</li> </ul>
Categories	<p>項目を説明するキーワードを指定する。キーワードはセミコロン (;) で区切る。標準のカテゴリキーワードのリストについては、以下の URL を参照</p> <p><a href="http://www.freedesktop.org/standards/VFolderDesktops.txt">http://www.freedesktop.org/standards/VFolderDesktops.txt</a></p> <p>vfolder 情報ファイルは、メニューに入力するキーワードを対応付ける</p>
X-GNOME-DocPath	<p>メニュー項目のポップアップメニューから「<i>application-name</i> のヘルプ」を選んだときに表示されるヘルプファイルを指定する</p>

デスクトップエントリファイルのキーに関する詳細については、以下の URL を参照してください。

<http://www.freedesktop.org/standards/desktop-entry-spec/desktop-entry-spec.html>

注 - パネルランチャーやデスクトップオブジェクトも、デスクトップエントリファイルを使用します。ランチャーやデスクトップオブジェクト用のデスクトップエントリファイルは、メニュー項目用のデスクトップエントリファイルと同じ情報を提供します。たとえば、デスクトップエントリファイルは、ユーザーがランチャーまたはオブジェクトを選択したときに実行されるコマンドを提供します。

## ディレクトリエントリファイル

「ディレクトリエントリファイル」は、メニューに関する情報を提供するデータファイルです。「ディレクトリエントリファイル」は、名前、ツールチップ、アイコンなどのメニューの詳細を指定します。ディレクトリエントリファイルには、`.directory` ファイル拡張子が付きます。

以下は、ディレクトリエントリファイルのサンプルです。

```
[Desktop Entry]
Name=Accessories
Comment=Accessories menu
Icon=gnome-util.png
Type=Directory
```

表 2-4 は、ディレクトリエントリファイルの最も重要なキーを説明しています。

表 2-4 ディレクトリエントリキー

ディレクトリエントリキー	説明
Name	メニューの名前を指定する。この名前は、メニューに表示される
Comment	メニューの短い説明を指定する。コメントは、メニューを指したときにツールチップとして表示される
Icon	メニューを表すアイコンのファイル名を指定する。ファイル名へのパス、あるいはファイル拡張子は指定しない
Type	メニューのタイプを指定する。このキーの値は常に Directory

## メニューの編集

以下の GNOME デスクトップコンポーネントを使用してメニューを編集できます。

- Nautilus ファイルマネージャ
- パネル上のメニュー

ファイルマネージャを使用してすべてのユーザーにメニューまたはメニュー項目を追加する場合は、メニューまたはメニュー項目を URI ロケーションに追加します。項目を追加できるメニューと、そのメニューに対応する URI ロケーションは表 2-1 に示しています。

パネルを使用して、すべてのユーザのメニューをカスタマイズする場合は、メニュー項目ポップアップメニューを使用します。詳細は、『GNOME 2.2 ユーザーズガイド (Linux 版)』の「Working With Menus」を参照してください。

メニューのカスタマイズに、メニュー設定ファイルおよびメニューデータファイルを使用することもできます。

## メニューの追加

次の方法を使用して、メニューをすべてのユーザーに追加できます。

- ファイルマネージャを使用する
- メニュー設定ファイルおよびメニューデータファイルを変更する

## ファイルマネージャによるメニューの追加

すべてのユーザーにメニューを追加するには、次の手順を実行します。

1. ファイルマネージャウィンドウで、メニューを追加する場所にアクセスします。たとえば、「アプリケーション」メニューにメニューを追加する場合は、「場所」フィールドに `applications-all-users:///` と入力して、リターンキーを押します。
2. 「ファイル」→「新規フォルダ」を選択します。未タイトルのフォルダが表示区画に追加されます。フォルダの名前が選択されています。
3. フォルダの名前を入力して、Return キーを押します。手順1 でアクセスした場所用の `vfolder` 情報ファイルは、新しいメニューの詳細を反映して自動的に更新されます。フォルダの名前は、メニューの名前として表示されます。

---

注 - フォルダの名前を入力する前に、ファイルマネージャウィンドウのディスプレイを再読み込みしてください。

---

次回ユーザーがログインすると、メニューに表示されます。

## メニューファイルによるメニューの追加

すべてのユーザーにメニューを追加するには、次の手順を実行します。

1. 追加する項目用にディレクトリエントリファイルを作成します。ディレクトリエントリファイルは、`/usr/share/gnome/vfolders` ディレクトリに作成します。ディレクトリエントリファイルの詳細については、35 ページの「ディレクトリエントリファイル」を参照してください。
2. メニューを追加する場所用の `vfolder` 情報ファイルの場所を確認します。「アプリケーション」メニューにメニューを追加する場合は、ファイル `/etc/gnome-  
vfs-2.0/vfolders/applications-all-users.vfolder-info` の場所を確認します。
3. `vfolder` 情報ファイルに、新しいメニュー用の `<Folder>` 要素を追加します。`vfolder` 情報ファイルの詳細については、32 ページの「`vfolder` とメニュー」を参照してください。

次回ユーザーがログインすると、メニューに表示されます。

## メニューへの項目の追加

すべてのユーザーのメニューに項目を追加するには、次の手順を実行します。

1. 追加する項目用にデスクトップエントリファイルを作成します。デスクトップエントリファイルの詳細については、34 ページの「デスクトップエントリファイル」を参照してください。
2. ファイルマネージャウィンドウを開きます。「ファイル」→「新規ウィンドウ」を選択して、別のファイルマネージャウィンドウを開きます。

3. 1つのウィンドウで、メニュー項目を追加する場所にアクセスします。たとえば、「設定」メニューにメニュー項目を追加する場合は、「場所」フィールドに `preferences-all-users:///` と入力し、リターンキーを押します。
4. 別のウィンドウで、そのメニュー項目用に作成したデスクトップエントリファイルを選択します。メニュー項目を追加する場所にデスクトップエントリファイルをドラッグします。  
あるいは、デスクトップエントリファイルをコピーして、メニュー項目を追加する場所にそのファイルを貼り付けます。

次回ユーザーがログインすると、メニュー項目に表示されます。

## メニューの設定を編集する

すべてのユーザーのメニューの設定を編集するには、次の手順を実行します。

1. パネルから編集するメニューを開きます。メニュー上の任意の項目を右クリックします。
2. 「メニュー全体」→「設定」を選択します。「ランチャーの設定」ダイアログが表示されます。
3. 「ランチャーの設定」ダイアログでメニューの設定を変更します。「**Launcher Properties**」ダイアログの要素については、『GNOME 2.2 ユーザーズガイド (Linux 版)』の「Working With Panels」を参照してください。
4. 「了解」をクリックします。

## メニュー項目を編集する

メニュー項目を編集するには、次の手順を実行します。

1. パネルから、編集する項目を含むメニューを開きます。編集する項目を右クリックします。
2. 「設定」を選択します。「ランチャーの設定」ダイアログが表示されます。
3. 「ランチャーの設定」ダイアログでメニュー項目の設定を変更します。「**Launcher Properties**」ダイアログの要素については、『GNOME 2.2 ユーザーズガイド (Linux 版)』の「Working With Panels」を参照してください。
4. 「了解」をクリックします。

## メニューから項目を削除する

メニューから項目を削除するには、パネルから削除する項目を含むメニューを開きます。削除する項目を右クリックします。「ランチャーをメニューから削除」を選択します。

次回ユーザーがログインすると、そのメニュー項目はメニューに表示されません。

---

## ユーザーが変更できないメニューの設定

以下の条件が当てはまる場合、ユーザーはメニューを変更できません。

- メニューに対応する vfolder 情報ファイルが `/etc/gnome-vfs-2.0/vfolders` ディレクトリに存在する
- vfolder 情報ファイルの名前が、メニューに対応する URI ロケーションの名前と同じである
- vfolder 情報ファイルのユーザーアクセス許可が読み取り専用設定されている

ユーザーが変更できないようにメニューを設定するには、次の手順を実行します。

1. `/etc/gnome-vfs-2.0/vfolders` ディレクトリに、設定するメニュー用の vfolder 情報ファイルを作成します。
2. vfolder 情報ファイルの名前に、設定するメニューに対応する URI ロケーションの名前を指定します。たとえば、「アプリケーション」メニューを設定する場合、`/etc/gnome-vfs-2.0/vfolders` ディレクトリに `applications.vfolder-info` という名前で vfolder 情報ファイルを作成します。
3. vfolder 情報ファイルのアクセス許可を読み取り専用設定します。



## 第 3 章

---

# テーマのインストール

---

この章では、テーマ、GNOME デスクトップで利用可能なテーマ設定、テーマ設定のオプションのインストール方法、およびカスタムオプションの作成方法について説明します。

- 41 ページの「テーマの概要」
- 43 ページの「新しいコントロールオプションをインストールする」
- 44 ページの「新しいウィンドウフレームオプションをインストールする」
- 45 ページの「テーマ用のアイコンのインストール」
- 46 ページの「カスタムコントロールオプションを作成する」

---

## テーマの概要

「テーマ」は、GNOME デスクトップの外観を指定する統合的な設定グループです。テーマを選ぶことにより、GNOME デスクトップの外観を変更できます。

テーマには、以下のように GNOME デスクトップの別の部分に影響する設定が含まれています。

### コントロール

テーマのコントロール設定は、ウィンドウ、パネル、アプレットの外観を決定します。また、ウィンドウ、パネル、およびアプレット上に現れる GNOME 対応インタフェース (メニュー、アイコン、ボタンなど) の外観も決定します。利用可能な一部のコントロール設定オプションは、特別なアクセシビリティ要件に適応するように設計されています。コントロール設定のオプションは、Theme 設定ツールの「**Controls**」タブセクションで選択できます。

### ウィンドウフレーム

テーマのウィンドウフレーム設定は、ウィンドウのフレームの外観だけを指定します。ウィンドウフレーム設定のオプションは、Theme 設定ツールの「**Window Border**」タブ付きセクションで選択できます。

アイコン

テーマのアイコン設定は、パネルとデスクトップ背景にあるアイコンの外観を指定します。アイコン設定のオプションは、Theme 設定ツールの「Icons」タブセクションで選択できます。

---

## テーマのインデックスファイル

各テーマには、そのテーマの特徴を決めるインデックスファイルがあります。インデックスファイルの名前は、`/usr/share/themes/theme-name/index.theme` となります。

以下に、テーマのインデックスファイルのサンプルを示します。

```
[Desktop Entry]
Type=X-GNOME-Metatheme
Name=High Contrast Large
Name[es]=Alto contraste grande
Comment=Large black-on-white text and icons
Comment[es]=Textos e iconos grandes en negro sobre blanco
Encoding=UTF-8
```

```
[X-GNOME-Metatheme]
GtkTheme=HighContrastLargePrint
IconTheme=HighContrast
MetacityTheme=Atlanta
ApplicationFont=sans 18
```

以下の表に、テーマのインデックスファイルのキーを示します。

表 3-1 テーマのインデックスファイルのキー

インデックスファイルのキー	説明
Type	テーマが、コントロール、ウィンドウフレーム、アイコンなどの複数のテーマオプションの外観を決定することを指定する
Name	テーマの名前。Theme 設定ツールで表示されるテーマの名前
Comment	テーマの簡単な説明。Theme 設定ツールで、テーマの名前の下に表示されるテキスト

表 3-1 テーマのインデックスファイルのキー (続き)

インデックスファイルのキー	説明
GtkTheme	Theme 設定ツールのコントロール設定に対応。ウィンドウ、パネル、アプレットに適用されるコントロール設定オプションを指定する
IconTheme	Theme 設定ツールのアイコン設定に対応。パネルとデスクトップ背景に適用されるアイコン設定オプションを指定する
MetacityTheme	Theme 設定ツールのウィンドウフレーム設定に対応。ウィンドウに適用されるウィンドウフレーム設定オプションを指定する
ApplicationFont	Font 設定ツールのアプリケーションフォント設定に対応

## 新しいコントロールオプションをインストールする

コントロール設定の新しいオプションを Theme 設定ツールで追加できます。コントロールオプションは、`/usr/share/themes` ディレクトリにあります。ファイルシステムでのコントロールオプションの典型的なディレクトリ構造は、以下のとおりです。

オプションファイル `/usr/share/themes/option-name/gtk-2.0/gtkrc`

イメージファイル `/usr/share/themes/option-name/pixmaps/*.*`

一般的にコントロール設定の新しいオプションは、`.tar.gz` ファイルの形で提供されます。新しいコントロールオプションをインストールするには、`.tar.gz` ファイルを解凍して、`.tar` ファイルを `/usr/share/themes` ディレクトリに展開します。

ユーザは、コントロール設定に対してユーザ定義のオプションもインストールできます。コントロール設定のオプションをインストールすると、そのオプションは `$HOME/.themes` ディレクトリに保存されます。

---

## 新しいウィンドウフレームオプションをインストールする

ウィンドウフレーム設定の新しいオプションを Theme 設定ツールで追加できます。ウィンドウフレームオプションは、`/usr/share/themes/option-name/metacity-1` ディレクトリにあります。ファイルシステムでのウィンドウフレームオプションの典型的なディレクトリ構造は、以下のとおりです。

オプションファイル    `/usr/share/themes/option-name/metacity-1/metacity-theme-1.xml`

イメージファイル      `/usr/share/themes/option-name/metacity-1/*.*`

一般的にウィンドウフレーム設定の新しいオプションは、`.tar.gz` ファイルの形で提供されます。新しいウィンドウフレームオプションをインストールするには、`.tar.gz` ファイルを解凍して、`.tar` ファイルを `/usr/share/themes` ディレクトリに展開します。

ユーザは、ウィンドウフレーム設定に対してユーザ定義のオプションもインストールできます。ウィンドウフレーム設定のオプションをインストールすると、そのオプションは `$HOME/.themes` ディレクトリに保存されます。

---

## 新しいアイコンオプションをインストールする

アイコン設定の新しいオプションを Theme 設定ツールで追加できます。アイコンオプションは、`/usr/share/icons/option-name` ディレクトリにあります。ファイルシステムでのアイコンオプションの典型的なディレクトリ構造は、以下のとおりです。

オプションファイル    `/usr/share/icons/option-name`

イメージファイル      `/usr/share/icons/option-name/icons/*.*`

一般的にアイコン設定の新しいオプションは、`.tar.gz` ファイルの形で提供されません。新しいアイコンオプションをインストールするには、`.tar.gz` ファイルを解凍して、`.tar` ファイルを `/usr/share/icons` ディレクトリに展開します。

ユーザは、アイコン設定に対してユーザ定義のオプションもインストールできます。アイコン設定のオプションをインストールすると、そのオプションは `$HOME/.icons/option-name` ディレクトリに保存されます。

---

## テーマ用のアイコンのインストール

GNOME デスクトップには、特別な視覚的要件を持つユーザ用に設計されたいくつかのテーマがあります。たとえば、視力の弱いユーザ用に設計されたテーマが用意されています。アイコンを各テーマで正しく表示するためには、アイコンのバージョンが複数必要な場合もあります。

アプリケーション用に新しいアイコンをインストールしなければならない場合があります。新しいアイコンをインストールするときは、そのアイコンに対していくつかのバージョンを作成する必要があります。それによって、アイコンはそれぞれのテーマで正しく表示されます。以下のタイプのアイコンは、複数のバージョンを作成する必要があります。

- GNOME デスクトップ上のアプリケーション内で使用されるアイコン
- GTK+ アプリケーションによって内部で使用されるアイコン、または GTK+ ストックアイコン

新しいアイコンをインストールするときは、そのアイコンに対していくつかのバージョンを作成する必要があります。それによって、アイコンはそれぞれのテーマで正しく表示されます。アイコンは、いくつかの形式で作成できます。たとえば PNG (Portable Network Graphic) 形式など。デスクトップ環境用のアイコンの推奨サイズは、48 x 48 ピクセルです。このサイズであれば、ほとんどのテーマでそのアイコンの大きさを変更できます。

新しいアイコンをインストールするときは、以下に示すアイコンを 48 x 48 ピクセルバージョンで作成します。

- 通常のアイコン
- 低コントラストのアイコン
- 高コントラストのアイコン
- 反転の高コントラストのアイコン

大きな表示を必要としないテーマのために、可能な場合、上記の各アイコンに対して 16 x 16 ピクセルバージョンも作成します。

アイコンは、43 ページの「新しいコントロールオプションをインストールする」または 44 ページの「新しいウィンドウフレームオプションをインストールする」で説明されているイメージファイルの場所にインストールします。たとえば、アイコンを HighContrastLargePrint テーマに追加する場合は、そのアイコンを `/usr/share/themes/HighContrastLargePrint/pixmaps` ディレクトリに追加します。該当するテーマファイルにアイコンの参照先を追加します。たとえば、アイコンを HighContrastLargePrint テーマに追加する場合は、そのアイコンへの参照を `/usr/share/themes/HighContrastLargePrint/gtk-2.0/gtkrc` ファイルに追加します。テーマがアイコンを GTK ストックアイコン識別子に関連付けられるように `gtkrc` ファイルを修正します。

アプリケーションランチャー用およびパネル用のアイコンの作成方法については、<http://www.freedesktop.org/Standards/icon-theme-spec> を参照してください。

---

## カスタムコントロールオプションを作成する

コントロール設定のオプションが、ユーザのニーズに合わない場合は、カスタムコントロールオプションを作成できます。カスタムコントロールオプションを作成するには、次の手順を実行します。

1. オプションのディレクトリ構造を `/usr/share/themes` ディレクトリ内に作成します。ほかのオプションと同じディレクトリ構造を使用します。たとえば、`SmallPrint` というオプションを作成する場合は、次のディレクトリを作成します。
  - `/usr/share/themes/SmallPrint`
  - `/usr/share/themes/SmallPrint/gtk-2.0`
2. ユーザ要件をほぼ満たす `gtkrc` ファイルを見つけます。そのファイルを新しいオプションの `gtk-2.0` ディレクトリにコピーします。
3. テキストエディタを使用して、`gtkrc` ファイルを開き、必要に応じてインターフェイス要素の属性を変更します。
4. 新しいオプションにイメージが含まれる場合は、そのイメージを新しいオプションの `pixmap` ディレクトリにインストールします。新しいオプションが別のオプションのイメージを使用する場合は、新しいオプション用にイメージのコピーを作成する必要はありません。ただし、`gtkrc` ファイルの `pixmap_path` エントリに登録されているイメージへの参照が正しいことを確認する必要があります。

ユーザは、コントロール設定向けの新しいオプションを選択できるようになりました。

`gtkrc` ファイルの詳細については、<http://developer.gnome.org/doc/API/2.0/gtk/index.html> を参照してください。

## 第 4 章

---

# MIME タイプ

---

この章では、アプリケーションがどのように MIME タイプを検出するかを説明します。また、MIME タイプの登録方法、および GNOME デスクトップへのアプリケーションの追加方法についても説明します。

- 47 ページの「MIME タイプの概要」
- 48 ページの「ファイルの MIME タイプの検出」
- 52 ページの「MIME タイプのためのアプリケーションの登録」
- 54 ページの「GNOME デスクトップへのアプリケーションの追加」

---

## MIME タイプの概要

MIME (*Multipurpose Internet Mail Extension*) タイプは、ファイルの書式を特定します。アプリケーションは、MIME タイプによってファイルを読み取ることができる。インターネットブラウザや電子メールなどのアプリケーションは、MIME タイプを使用して異なるタイプのファイルを扱います。たとえば、電子メールアプリケーションの場合、MIME タイプを使用して電子メールに添付されているファイルのタイプを検出します。

Nautilus ファイルマネージャはMIME タイプを使用してファイルの種類を識別します。ファイルマネージャは、以下のタスクを実行するために MIME タイプを知る必要があります。

- 正しいアプリケーションでファイルを開く
- ファイルのタイプを説明する文字列を表示する
- ファイルを表す適切なアイコンを表示する
- そのファイルを開くことが可能な別のアプリケーションのリストを表示する

新しいアプリケーションを追加する場合は、そのアプリケーションに関連付けられるファイルを、ほかのアプリケーションが認識できる必要があります。ほかのアプリケーションがそのアプリケーションファイルの MIME タイプを検出するためには、いくつかのタスクを実行する必要があります。

この節では、アプリケーションはどのようにファイルの MIME タイプを検出するか、またアプリケーションはどのように MIME タイプに関連付けられるのかを説明します。また、この章では、新しいアプリケーションを追加するための手順についても説明します。

---

## ファイルの MIME タイプの検出

アプリケーションは以下の方法でファイルの MIME タイプを検出します。

1. アプリケーションは、「ファイルタイプ検索ツール」を使用して、ファイル内の特定のパターンを検索します。ファイルタイプ検索ツールは、ファイル内の特定のパターンと MIME タイプに関連付けます。アプリケーションがそのパターンとの一致を見つけると、そのパターンに関連付けられている MIME タイプがファイルの MIME タイプになります。
2. ファイルタイプ検索ツールによって MIME タイプが識別されない場合、アプリケーションはファイル名を調べます。アプリケーションは、ファイル名を「MIME タイプレジストリ」と照合します。MIME タイプレジストリは、特定のファイル拡張子とファイル名パターンを特定の MIME タイプに関連付けます。ファイル名との一致が見つかり、その拡張子またはパターンに関連付けられている MIME タイプが、ファイルの MIME タイプになります。

この節では、ファイルタイプ検索ツールと MIME タイプレジストリについて詳しく説明します。

## ファイルタイプ検索ツール

ファイルタイプ検索ツールは、`/etc/gnome-vfs-mime-magic` ファイルに指定されています。以下にファイルタイプ検索ツールの例を示します。

```
0 string  \x89PNG          image/png
```

ファイルタイプ検索ツールの構文は、以下のとおりです。

```
offset_start[:offset_end] pattern_type pattern [&pattern_mask] type
```

表 4-1 は、ファイルタイプ検索ツールの各フィールドを説明しています。

表 4-1 ファイルタイプ検索ツールのフィールド

フィールド	説明
offset_start	テキストパターンを検索する前に、ファイル内で無視する文字数を指定します。
pattern_type	検索するパターンのタイプを指定します。このマニュアルの発行時点では、string パターンタイプのみがサポートされています。
pattern	検索するパターンを指定します。
pattern_mask	パターンマスクは、16 進数形式で指定します。パターンマスクについては、次の節を参照してください。  このフィールドは省略可能です。このフィールドは例には示されていません。
type	このエントリと一致するファイルに関連付ける MIME タイプを指定します。

## パターンマスク

パターンマスクは、ファイル内でパターンを検索するときに、パターン中で無視するビットを識別します。以下は、ファイルタイプ検索ツールとパターンマスクの例を示しています。

```
0 string BMxxxx\000\000 &0xffff00000000ffff image/bmp
```

この例のパターンとマスクは、以下のとおりです。

パターン	B	M	x	x	x	x	\000	\000
マスク	ff	ff	00	00	00	00	ff	ff

パターンとマスクは、次のような特性でファイルを指定します。

1. ファイルは BM から始まります。
2. BM の後に、任意の 4 バイトの値が続きます。
3. 任意の 4 バイトの後に、\000\000 が続きます。

ファイルタイプ検索ツールは、このパターンとマスクに一致するファイルの MIME タイプが、image/bmpであることを示します。

## MIME タイプレジストリ

MIME タイプレジストリは、`/usr/share/mime-info`にあります。MIME タイプレジストリには、次のファイルが含まれています。

ファイル	ファイル拡張子
MIME 情報ファイル	<code>.mime</code>
MIME キーファイル	<code>.keys</code>

この節では、MIME 情報ファイルと MIME キーファイルについて説明します。

### MIME 情報ファイル

MIME 情報ファイルは、MIME タイプを以下の1つまたは両方と関連付けます。

- ファイル拡張子
- ファイル名のパターン

アプリケーションがファイルの MIME タイプを検索する場合、アプリケーションはファイル名を MIME 情報ファイルと照合します。ファイル名との一致が見つかったら、その拡張子またはパターンに関連付けられている MIME タイプが、ファイルの MIME タイプになります。

MIME 情報ファイルでは、検索するファイル名のパターンは、正規表現で書かれています。

MIME 情報ファイル内の MIME タイプエントリの形式は、以下のとおりです。

```
MIME-type
  ext[priority]:list-of-extensions
  regex[priority]:list-of-regular-expressions
```

ファイル拡張子および正規表現に、優先順位値を指定できます。優先順位値を使用して、複合されたファイル名を区別できます。たとえば、`.gz` 拡張子に優先順位値 1 を割り当て、それより高い優先順位値の 2 を `.tar.gz` 拡張子に割り当てたとしてします。この場合、ファイル `abc.tar.gz` の MIME タイプは、`.tar.gz` になります。

---

注 – `ext` フィールドと `regex` フィールドは、タブ文字 (`\t`) を使用してインデントする必要があります。

---

以下の MIME タイプエントリは、`gnome-vfs.mime` MIME 情報ファイルからのサンプルです。

```
application/x-compressed-tar
  regex,2: tar\.gz$
  ext: tgz
audio/x-real-audio
  ext: rm ra ram
image/jpeg
  ext: jpe jpeg jpg
image/png
  ext: png
text/html
  ext: html htm HTML
text/plain
  ext: asc txt TXT
text/x-readme
  regex: README.*
```

---

注 - ファイルマネージャは、MIME 情報ファイルをアルファベット順に読み取ります。MIME タイプがファイル拡張子または正規表現と関連付けられる順序は、アルファベット順で決定します。たとえば、ファイル abc.mime と def.mime で、同じファイル拡張子が異なる MIME タイプに割り当てられている場合、abc.mime にある MIME タイプが使用されます。

---

## MIME キーファイル

MIME キーファイルは、ユーザーインターフェイスで使用される MIME タイプに関する情報を提供します。たとえば、MIME キーファイルは、MIME タイプの説明を提供し、その MIME タイプのファイルを表すアイコンを指定します。

以下の例は、MIME キーファイルのサンプルを示しています。

```
text/html
  description=HTML page
  icon_filename=gnome-text-html
  default_action_type=application
  short_list_application_ids_for_novice_user_level=mozilla,netscape,galeon
  category=Documents/World Wide Web
```

---

注 - MIME キーファイル内のキーは、タブ文字 (\t) を使用してインデントする必要があります。

---

表 4-2 は、MIME キーファイルで最も重要なキーについて説明しています。通常、description キーと category キーは使用しているシステム環境に対応します。

表 4-2 MIME キーファイル内のキー

キー	説明
can_be_executable	この MIME タイプのファイルが実行可能かどうかを指定します
description	MIME タイプの説明。この説明は、ファイルマネージャおよびほかのアプリケーションで表示できます
icon_filename	MIME タイプを表すアイコンのファイル名を指定します。ファイル名へのパス、あるいはファイル拡張子は指定しない  このアイコンは、ファイルマネージャおよびほかのアプリケーションで表示できます
default_action_type	この MIME タイプのファイルを開いたときに行われる動作のカテゴリを指定します。ほとんどのアプリケーションのこの MIME タイプに、application を指定します
short_list_application_ids_for_novice_user_level	この MIME タイプのファイルを開くときに使用するアプリケーションを指定します。優先順に 1 つ以上のアプリケーションを指定します。アプリケーションは、アプリケーションレジストリに登録する必要があります
category	MIME タイプのカテゴリを指定します。このキーの値によって、File Associations 設定ツール内の MIME タイプの場所が決定されます。

## MIME タイプのためのアプリケーションの登録

アプリケーションレジストリには、アプリケーションを登録するテキストファイルが含まれています。このアプリケーション登録ファイルには、アプリケーションの詳細を指定する一連のキーと値の組み合わせが含まれています。アプリケーション登録ファイルには、以下の情報が含まれています。

- アプリケーションの起動に使用するコマンド
- アプリケーションに関連付ける MIME タイプ

アプリケーション登録ファイルには、1 つ以上のアプリケーションを登録することができます。アプリケーション登録ファイルには、.applications 拡張子が付きません。

アプリケーションレジストリの場所は、`/usr/share/application-registry` です。このディレクトリには、デフォルトのアプリケーション登録ファイル (`gnome-vfs.applications`) があります。

アプリケーションを登録するには、アプリケーションレジストリにそのアプリケーションの登録ファイルを追加します。

以下は、アプリケーション登録の例です。

```
eog
  command=eog
  name=Eye of Gnome
  can_open_multiple_files=true
  expects_uris=false
  requires_terminal=false
  mime_types=image/bmp,image/gif,image/jpeg,image/png,image/tiff,
image/x-xpixmap,image/x-bmp,image/x-png,image/x-portable-anymap,
image/x-portable-bitmap,image/x-portable-graymap,
image/x-portable-pixmap
```

表 4-3 は、アプリケーション登録ファイル内のキーを説明しています。

表 4-3 アプリケーション登録のためのキー

キー	説明
Application identifier	アプリケーションの一意の識別子を指定します。この識別子は、このアプリケーション用の MIME キーファイル内の <code>short_list_application_ids_for_novice_user_level</code> キー内の識別子と同じにする必要があります
command	アプリケーションの起動に使用するコマンド、およびコマンドと共に使用するオプションを指定します
name	アプリケーションの名前を指定します。この名前は、ユーザーインターフェイスに表示されます。たとえば、この名前は、ファイルマネージャの「アプリケーションから開く」サブメニューに表示されます
can_open_multiple_files	アプリケーションが複数のファイルを同時に開くことができるかどうかを指定します
expects_uris	アプリケーションが URI を処理できるかどうかを指定します。このキーの値が <code>true</code> の場合、アプリケーション登録エントリ内に <code>supported_uri_schemes</code> キーが必要です

表 4-3 アプリケーション登録のためのキー (続き)

キー	説明
supported_uri_schemes	アプリケーションが処理できる URI スキーマを指定します
requires_terminal	アプリケーションを端末で実行するかどうかを指定します。アプリケーションが実行に使用するウィンドウを作成しない場合は、このフィールドに true を入力します
mime_types	アプリケーションが使用できる MIME タイプを指定します

## GNOME デスクトップへのアプリケーションの追加

GNOME デスクトップにアプリケーションを追加するには、次の手順を実行します。

1. アプリケーション用にメニュー項目を追加します。メニュー項目の追加方法については、第 2 章を参照してください。
2. `/usr/share/icons/theme-name/icon-size/apps` に、アプリケーション用のアイコンを追加します。アイコンおよびテーマの詳細については、第 3 章を参照してください。
3. アプリケーションが新しい MIME タイプを使用する場合は、その新しい MIME タイプ用のファイルタイプ検索ツールを追加します。ファイルタイプ検索ツールの詳細については、48 ページの「ファイルタイプ検索ツール」を参照してください。
4. アプリケーションが新しい MIME タイプを使用する場合は、そのアプリケーション用の MIME 情報ファイルを MIME タイプレジストリに追加します。MIME 情報ファイルの詳細については、50 ページの「MIME 情報ファイル」を参照してください。
5. アプリケーション用の MIME キーファイルを MIME タイプレジストリに追加します。MIME キーファイルの詳細については、51 ページの「MIME キーファイル」を参照してください。
6. アプリケーションが新しい MIME タイプを使用する場合は、その MIME タイプ用のアイコンを `/usr/share/icons/theme-name/icon-size/mimetypes` に追加します。アイコンおよびテーマの詳細については、第 3 章を参照してください。
7. アプリケーションと MIME タイプを関連付けるには、アプリケーション登録ファイルをアプリケーションレジストリに追加します。アプリケーションレジストリの詳細については、52 ページの「MIME タイプのためのアプリケーションの登録」を参照してください。

## 第 5 章

---

# GDM の構成

---

この章では、GNOME デスクトップの GDM の設定方法および新しいセッションへのログイン方法について説明します。

- 55 ページの「GDM の概要」
- 55 ページの「GDM の構成」
- 61 ページの「新しいセッションへのログイン」

---

## GDM の概要

GNOME デスクトップセッションを開始するには、ログインして識別情報を認証してもらう必要があります。ログイン画面は、ユーザにとって GNOME デスクトップへの入り口です。GNOME Display Manager (GDM) アプリケーションが、ログイン画面を制御しています。GDM を設定すると、システムへのログイン方法をカスタマイズできます。

また GDM を使用して、新しいセッションにもログインできます。新しいセッションにログインする前に、現在のセッションをログアウトする必要はありません。

---

## GDM の構成

GDM ログイン画面の設定には、Login Screen Setup アプリケーションを使用します。Login Screen Setup を起動するには、「アプリケーション」、「System Tools」、「Login Screen Setup」の順に選択します。

---

注 - GDM ログイン画面を設定するには、システム管理者または root アクセス特権が必要です。

---

以下の GDM の機能エリアが設定可能です。

- 「一般」
- 「Standard greeter」
- 「Graphical greeter」
- 「Security」
- 「XDMCP」

## 一般的な設定

「一般」タブ付きセクションで、GDM ログイン画面の一般設定を行います。

表 5-1 に、構成可能な一般的な GDM 設定を示します。

表 5-1 一般的な GDM 設定

要素	説明
「Local」	ローカルシステムからログインするときのログイン画面で使用されるインターフェイスの種類を選択します。ドロップダウンリストから次のいずれかのオプションを選択します。 <ul style="list-style-type: none"><li>■ 「Graphical greeter」: ローカルシステムからログインするときに、グラフィカルログイン画面を使用します。</li><li>■ 「Standard greeter」: ローカルシステムからログインするときに、標準の GNOME ログイン画面を使用します。</li></ul>
「Remote」	リモートシステムからログインするときのログイン画面で使用されるインターフェイスの種類を選択します。ドロップダウンリストから次のいずれかのオプションを選択します。 <ul style="list-style-type: none"><li>■ 「Graphical greeter」: リモートシステムからログインするときに、グラフィカルログイン画面を使用します。</li><li>■ 「Standard greeter」: リモートシステムからログインするときに、標準の GNOME ログイン画面を使用します。</li></ul>
「Always use 24 hour clock format」	ログイン画面に、00.00 から 24.00 の形式で時刻を表示します。

表 5-1 一般的な GDM 設定 (続き)

要素	説明
「Welcome string」	ローカルシステムからログインするときに、標準の GNOME ログイン画面に表示される開始メッセージを入力します。  注- 開始メッセージ内にシステム名を表示する場合は、このテキストボックスに %n を入力します。
「Remote welcome string」	リモートシステムからログインするときに、標準の GNOME ログイン画面に表示される開始メッセージを入力します。
「Login a user automatically on first bootup」	システムをはじめて起動したときに、自動的にユーザにログインします。
「Automatic login username」	ドロップダウンコンビネーションボックスに、システムがユーザに自動的にログインする際に使用されるユーザ名を入力します。
「Login a user automatically after a specified number of seconds」	指定した時間が経過すると、自動的にユーザにログインします。
「Timed login username」	ドロップダウンコンビネーションボックスに、システムが指定時間の経過後ユーザに自動的にログインする際に使用されるユーザ名を入力します。
「Seconds before login」	スピンボックスに、ユーザに自動的にログインする前の待機時間を指定します。

## 標準 GNOME ログイン画面の設定

「Standard greeter」タブ付きセクションでは、標準 GNOME ログイン画面の設定を行います。

表 5-2 に、設定可能な標準 GNOME ログイン画面の設定を示します。

表 5-2 標準 GNOME ログイン画面の設定

要素	説明
「ロゴ」	標準 GNOME ログイン画面にロゴとして表示する画像を選択する。画像を選択するには、画像のファイル名をドロップダウンコンビネーションボックスに入力する。または、「参照」をクリックしてダイアログを表示し画像を選択する
「Show choosable user images (face browser)」	ユーザの画像を標準 GNOME ログイン画面に表示する。このオプションが選択されると、ユーザはユーザ名を入力する代わりに画像を選択できる

表 5-2 標準 GNOME ログイン画面の設定 (続き)

要素	説明
「No background」	標準 GNOME ログイン画面の背景に画像や色を表示しない
「画像」	標準 GNOME ログイン画面の背景に画像を表示する。画像を選択するには、画像のファイル名をダイアログの右側にあるドロップダウンコンビネーションボックスに入力する。または、ダイアログの右側にある「参照」ボタンをクリックしてダイアログを表示し、画像を選択する
「カラー」	標準 GNOME ログイン画面の背景に色を表示する。「背景色」ボタンで色を指定する
「Scale background image to fit」	「画像」オプションを選択した場合に、標準 GNOME ログイン画面の背景に合わせて背景画像のサイズを変更する。画像の幅対高さの比率は維持される
「Only color on remote displays」	リモートシステムからログインしたときに、標準 GNOME ログイン画面の背景に色を表示する
「背景の色」	背景の「カラー」オプションまたは「Only color on remote displays」オプションを選択した場合は、このボタンで色を指定する。カラーセクタボタンをクリックして、「色の選択」ダイアログを表示する。任意の色を「色の選択」ダイアログから選ぶ

## グラフィカルログイン画面の設定

「Graphical greeter」タブ付きセクションでは、グラフィカルログイン画面の設定を行います。

表 5-3 に、設定可能なグラフィカルログイン画面の設定を示します。

表 5-3 グラフィカルログイン画面の設定

要素	説明
「Theme list」	グラフィカルログイン画面に使用するテーマを選択する。ダイアログの右側にテーマのプレビューが表示される

表 5-3 グラフィカルログイン画面の設定 (続き)

要素	説明
「新規テーマのインストール」	<p>利用可能なテーマのリストにテーマを追加できる。新しいテーマは、tar および zip でアーカイブされたファイルである必要がある。つまり、新しいテーマは、.tar.gz ファイルになる。</p> <p>新しいテーマをインストールするには、次の手順を実行する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「Install new theme」ボタンをクリックする。</li> <li>2. ダイアログでアーカイブファイルを選択する。ファイルを選択したら、「了解」をクリックする</li> </ol>
「Delete theme」	<p>テーマを削除するには、テーマを選択し、「Delete theme」ボタンをクリックする</p>

## セキュリティ設定

「Security」タブ付きセクションでは、GDM のセキュリティ設定を行います。

表 5-4 に、構成可能なセキュリティ設定を示します。

表 5-4 セキュリティ設定

要素	説明
「Allow root to login with GDM」	<p>システム管理者または root アクセス特権を持つユーザが、GDM を使ってローカルシステムからログインできるようになる</p> <p>注 - プラグイン可能認証モジュール (<i>Pluggable Authentication Modules: PAM</i>) をサポートするシステムでは、このオプションは無視される。PAM ライブラリは、ユーザがローカルシステムに存在するかどうかを判断する</p>
「Allow root to login remotely with GDM」	<p>システム管理者または root アクセス特権を持つユーザが、GDM を使ってリモートシステムからログインできるようになる</p>
「Allow remote timed logins」	<p>GDM は、指定された時間が経過するとリモートシステムからユーザに自動的にログインできるようになる</p>
「Show actions menu」	<p>「アクション」メニューをログイン画面で使用できるようになる</p>
「Allow configuration from the login screen」	<p>「Configure the login manager」項目をログイン画面の「アクション」メニューで使用できるようになる</p>

表 5-4 セキュリティ設定 (続き)

要素	説明
「Allow running XDMCP chooser from the login screen」	「Run XDMCP chooser」項目をログイン画面の「アクション」メニューで使用できるようになる  「Run XDMCP chooser」項目は、表示管理サービスを提供するホストの一覧を表示する。ユーザは、この一覧からセッションを管理するホストを選択できる
「Always disallow TCP connections to X server (disables all remote connections)」	ユーザは、リモートシステムから X ウィンドウシステムに接続できなくなる
「Retry delay (seconds)」	ログインが失敗した後、ログイン画面の「ユーザ名」フィールドを再度アクティブにする前に待機する時間をスピンボックスに指定する  注 - プラグイン可能認証モジュール ( <i>Pluggable Authentication Modules: PAM</i> ) をサポートするシステムでは、このオプションは無視される。

## XDMCP の設定

「XDMCP」タブ付きセクションでは、X Display Manager Control Protocol (XDMCP) の設定を行います。

表 5-5 に、構成可能な XDMCP 設定を示します。

表 5-5 XDMCP の設定

要素	説明
「Enable XDMCP」	リモート X ウィンドウシステムディスプレイが、システムから X ウィンドウシステムシステムセッションを要求できるようになる
「Honour indirect requests」	ディスプレイマネージャを持たないリモート X ウィンドウシステムディスプレイが、現在のシステムから XDMCP 表示管理サービスを要求できるようになる
「Listen on UDP port」	スピンボックスに、ユーザーデータグラムプロトコル ( <i>User Datagram Protocol: UDP</i> ) 要求を受信するポート番号を指定する

表 5-5 XDMCP の設定 (続き)

要素	説明
「Maximum pending requests」	<p>スピンボックスに、キューに入れるシステムからのセッション要求の最大数を指定する</p> <p>注- このオプションを使用すると、サービス攻撃の否定を回避できる。このオプションは、一度にセッションを要求できるディスプレイの数を指定する。このオプションは、GDM が許可するリモートセッションの総数を指定するわけではない</p>
「Max pending indirect requests」	<p>GDM は、システムからのセッション要求のキューを作成する。このスピンボックスで、キューに入れるディスプレイマネージャを持たないディスプレイからのセッション要求の最大数を指定する</p>
「Maximum remote sessions」	<p>スピンボックスで、GDM が許可するリモートセッションの総数を指定する</p>
「Maximum wait time」	<p>スピンボックスで、GDM がキューから要求を削除するまでの待機時間を指定する</p>
「Maximum indirect wait time」	<p>スピンボックスで、GDM が要求セッションを持つディスプレイのキューからディスプレイマネージャを持たないディスプレイを削除するまでの待機時間を指定する</p>
「Displays per host」	<p>スピンボックスで、GDM がホストから許可するセッションの総数を指定する</p>
「Ping interval (minutes)」	<p>GDM は、セッションがアクティブなままかどうかをチェックする。スピンボックスで、GDM からのチェックの間隔を指定する</p>

## 新しいセッションへのログイン

新しいセッションにログインするには、「アプリケーション」、「System Tools」、「New login」の順に選択します。ログイン画面が表示されます。ログイン時のユーザ名とパスワードを入力します。



## 第 6 章

---

# スクリーンセーバーの設定

---

この章では、スクリーンセーバーの設定を行う方法について説明します。この章では、スクリーンセーバーに利用可能なディスプレイの変更方法についても説明します。

- 63 ページの「スクリーンセーバーの概要」
- 63 ページの「スクリーンセーバーの設定」
- 64 ページの「スクリーンセーバーディスプレイの変更」

---

## スクリーンセーバーの概要

スクリーンセーバーは、画面が使用されていないときに、画面上のイメージを置き換えるアプリケーションです。GNOME デスクトップ用のスクリーンセーバーアプリケーションは、XScreenSaver この節では、XScreenSaver アプリケーションの設定方法、スクリーンセーバーに利用可能なディスプレイの変更方法について説明します。

---

## スクリーンセーバーの設定

デフォルトのスクリーンセーバー設定は、XScreenSaver ファイルに格納されています。このファイルの格納場所は、`/usr/X11R6/lib/X11/app-defaults/XScreenSaver` です。

スクリーンセーバーのアプリケーション設定を変更するには、スクリーンセーバー設定ツールを使用します。スクリーンセーバー設定を変更すると、ホームディレクトリに `$HOME/.xscreensaver` ファイルとして格納されます。スクリーンセーバー設定については、『GNOME 2.2 Desktop on Linux User Guide』を参照してください。

/usr/bin/xscreensaver-demo コマンドを実行しても、「XScreenSaver」ダイアログを開くことができます。

すべてのユーザー用にデフォルトのスクリーンセーバー設定を行うには、XScreenSaver ファイルを変更します。また、「XScreenSaver」ダイアログを使用して、\$HOME/.xscreensaver ファイルを作成し、そのファイルを XScreenSaver ファイルの場所にコピーすることもできます。

ユーザーのデフォルト設定を復元する場合は、そのユーザーのホームディレクトリから \$HOME/.xscreensaver ファイルを削除します。\$HOME/.xscreensaver ファイルが存在しない場合は、XScreenSaver ファイルのデフォルト設定が使用されています。

---

注 - XScreenSaver のデフォルトの表示動作では、ブランク画面が表示されます。ブランク画面ではユーザーが困惑する恐れがあります。したがって、デフォルトの表示動作を変更することをお勧めします。

---

スクリーンセーバー設定の変更を有効にするには、以下のコマンドを使用してスクリーンセーバー設定を再読み込みします。

```
# xscreensaver-command -restart
```

---

注 - このマニュアルの発行時点では、xset アプリケーションは、XScreenSaver で機能していません。スクリーンセーバー設定を変更するには、XScreenSaver ファイルまたは \$HOME/.xscreensaver ファイルを変更します。

---

## スクリーンセーバーディスプレイの変更

スクリーンセーバーアプリケーションでは、1つ以上のスクリーンセーバーディスプレイを選択できます。スクリーンセーバーディスプレイは、画面が使用されていないときに、画面上にイメージを表示するアプリケーションのことです。スクリーンセーバーディスプレイは、XScreenSaver ファイルと \$HOME/.xscreensaver ファイルに記述されています。

新しいスクリーンセーバーディスプレイを追加するには、そのディスプレイの実行ファイルをディスプレイ用のディレクトリにコピーします。スクリーンセーバーディスプレイのコマンドを XScreenSaver ファイルまたは \$HOME/.xscreensaver ファイルに追加します。ウィンドウ内ではなく、全画面上でスクリーンセーバーディスプレイを実行するのに必要となる引数を含めます。たとえば、スクリーンセーバーディスプレイを全画面に表示するのに、-root オプションを含める場合があります。

Java デスクトップシステムでは、ディスプレイの格納場所は  
/usr/lib/xscreensaver ディレクトリです。

スクリーンセーバーディスプレイを無効にするには、設定ファイルで、スクリーンセーバーディスプレイのコマンドの先頭にマイナス記号 (-) を追加します。以下の \$HOME/.xscreensaver ファイルからの抜粋は、Qix (solid) スクリーンセーバーディスプレイを無効化した状態を表しています。

```
- "Qix (solid)" qix -root -solid -segments 100
```



## 第 7 章

---

# セッション管理

---

この章では、セッション管理の概要と、セッションのデフォルトを設定する方法について説明します。また、セッションとログインスクリプトに関する情報も提供します。

- 67 ページの「セッションの概要」
- 68 ページの「セッションのデフォルトの設定」

---

## セッションの概要

GNOME デスクトップにログインしてから、ログアウトするまでの間をセッションといいます。ログインマネージャによってユーザーが認証されると、セッションマネージャが開始されます。ユーザーは、セッションマネージャによりセッションを管理できます。たとえば、セッションの状態を保存して、次回ログインしたときにそのセッションに戻ることができます。

少なくとも、以下のアプリケーションがセッションで動作します。

- `gnome-session` セッションマネージャ
- GConf X 設定デーモンの `gnome-settings-daemon`
- GNOME デスクトップ上でパネルを起動する `gnome-panel` アプリケーション
- `Metacity` ウィンドウマネージャ

---

## セッションのデフォルトの設定

以下の表は、デフォルトのセッション情報が含まれているファイルを示しています。

ファイル	説明
<code>/usr/share/gnome/default.session</code>	デフォルトのセッションファイル。デフォルトのセッションの詳細は、このファイルに格納されています
<code>\$HOME/.gnome2/session</code>	ユーザーセッションファイル。セッションを変更した場合、その詳細がこのファイルに格納されます

すべてのユーザー用にデフォルトのセッションの詳細を設定する場合は、デフォルトのセッションファイルを変更します。

ユーザーのデフォルトのセッション設定を復元する場合は、そのユーザーのホームディレクトリからセッションファイルを削除します。ユーザーセッションファイルが存在しない場合は、`/usr/share/gnome/default.session` のデフォルト設定が使用されています。

現在のセッションをデフォルトセッションとして保存する場合、`gnome-session-save` コマンドを実行します。

## 第 8 章

---

# ヘルプシステム

---

この章では、GNOME デスクトップのヘルプシステムについて説明します。

- 69 ページの「概要」
- 69 ページの「OMF ファイル」
- 70 ページの「ScrollKeeper カタログ作成システム」

---

## 概要

GNOME デスクトップは、Yelp ヘルプブラウザにヘルプを表示します。ヘルプのソース文書は XML ファイルです。XML ファイルは、DocBook XML Version 4.1.2 DTD (Document Type Definition) に書き込まれます。DocBook XML ファイルは HTML に変換され、この HTML がヘルプブラウザに表示されます。DocBook XML については、以下の URL を参照してください。

<http://www.oasis-open.org/docbook/xml>

ヘルプシステムは、OMF (*Open Source Metadata Framework*) およびカタログ作成システムを使用します。次の節では、OMF ファイルとカタログ作成システムについて説明します。

---

## OMF ファイル

各マニュアルの XML ファイルには、OMF ファイルが関連付けられています。OMF ファイルには、ヘルプブラウザが使用するマニュアルについての情報が含まれています。OMF ファイルの拡張子は、.omf です。

アプリケーションをインストールすると、インストールプロセスが、OMF ファイルを OMF ファイル用のディレクトリにインストールします。OMF ファイルディレクトリ内にヘルプ文書の関連 OMF ファイルがある場合は、ヘルプ文書がヘルプブラウザに表示されます。

OMF ファイルには、ヘルプ文書に関する以下のような情報が含まれています。

- ヘルプ文書の XML ファイルがある場所
- ヘルプ文書の題名
- ヘルプ文書が属しているサブジェクトカテゴリ

---

## ScrollKeeper カタログ作成システム

ScrollKeeper は、文書用カタログ作成システムです。ヘルプブラウザは、ScrollKeeper を使用してシステム上にマニュアルのカタログを作成します。ScrollKeeper は、ヘルプブラウザのために OMF ファイル内の情報を管理します。

ScrollKeeper が OMF ファイル内の情報を使用することで、ヘルプブラウザはシステム上のヘルプ文書を検索できます。アプリケーションをインストールすると、インストールプロセスが、OMF ファイルを OMF ファイル用のディレクトリにインストールします。

ScrollKeeper は、OMF ファイルが関連付けられた各ヘルプ文書の目次を作成します。ScrollKeeper は、OMF ファイル内に指定された XML ファイルから目次を作成します。ヘルプ文書の目次はヘルプブラウザウィンドウの左区画に表示されます。ユーザは、目次を使って左区画に表示されたヘルプ文書に移動できます。OMF ファイルの文書の題名もヘルプブラウザウィンドウの左区画に表示されます。

ScrollKeeper には、ヘルプ文書が属しているサブジェクトカテゴリの階層が含まれています。ヘルプ文書は、ヘルプブラウザウィンドウの左区画のサブカテゴリ階層に整理されています。OMF ファイル内の文書のサブカテゴリは、階層内の文書の位置を決定します。サブジェクトカテゴリの階層は、以下のファイルで定義されます。

```
/usr/share/scrollkeeper/Templates/C/scrollkeeper_cl.xml
```

文書のサブジェクトカテゴリは、以下のファイルのサブジェクトカテゴリに対応してなければなりません。

```
/usr/share/scrollkeeper/Templates/C/scrollkeeper_cl.xml
```

---

注 - ヘルプ文書 XML ファイルを新しい場所に移動した場合、OMF ファイル内の場所情報も更新しなければならない場合があります。

---

## 第 9 章

---

# パフォーマンスの改善

---

この章では、GNOME デスクトップのパフォーマンスを改善する方法について説明します。

- 71 ページの「パフォーマンスの改善の概要」
- 71 ページの「CPU 使用率の低減」
- 77 ページの「X ウィンドウシステムのネットワークトラフィックの低減」
- 78 ページの「色の使用を減らして表示品質を改善」
- 79 ページの「ヘルプのパフォーマンスの改善」

---

## パフォーマンスの改善の概要

この章では、GNOME デスクトップのパフォーマンスを改善するために変更できるいくつかの設定について説明します。ユーザー設定について値を設定するには、`gconftool-2` コマンドを使用します。この章のコマンド例では、ユーザー設定ソースの値を変更する方法を示します。

`--direct` および `--config-source` オプションを使用して、設定の必須値またはデフォルト値をセットできます。また、スクリプト内で `gconftool-2` コマンドを使用して、多数の設定値をセットすることもできます。`gconftool-2` コマンドと、このコマンドに使用できるオプションについては、第 1 章を参照してください。

---

## CPU 使用率の低減

この節では、GNOME デスクトップの CPU 使用率を減らすための設定について説明します。

## CPU リソースをあまり必要としないテーマオプションを使用する

一部のウィンドウフレームテーマオプションは、ウィンドウフレームを描くのにイメージファイルを読み込みます。ほかのオプションは、単純なテクニックを使用してウィンドウフレームを描きます。

Crux ウィンドウフレームオプションは画像ファイルをロードするので、CPU リソースが限られたシステムでは動作が遅くなる恐れがあります。CPU 使用率を減らすには、以下のいずれかのウィンドウフレームオプションを使用します。

- Atlanta
- Esco

以下のウィンドウフレームオプションも、Crux よりは CPU リソースの使用率が少なくなります。

- AgingGorilla
- Bright
- Metabox

---

注 - Metabox は、HighContrastInverse などの反転制御オプションとは正しく動作しません。反転制御オプションを使用する場合は、Atlanta を使ってください。

---

ウィンドウフレームテーマのオプションを変更するには、以下のコマンドを実行します。

```
# gconftool-2 --type string --set /apps/metacity/general/theme  
option-name
```

Atlanta を使用する場合は、次のコマンドを実行します。

```
# gconftool-2 --type string --set /apps/metacity/general/theme  
Atlanta
```

または、Theme 設定ツールで適切なオプションを選択します。

---

ヒント – Metacity テーマビューアを使用して、ウィンドウフレームオプションのパフォーマンスを測定したり、オプションをプレビューできます。Metacity テーマビューアを起動するには、次のコマンドを使用します。

```
# metacity-theme-viewer option-name
```

たとえば、Atlanta のパフォーマンスを測定し、Atlanta をプレビューするには、次のコマンドを実行します。

```
# metacity-theme-viewer Atlanta
```

---

## メニュー上のアイコンをオフにして CPU 使用率を減らす

メニュー上のいくつかの項目は、その項目の横にアイコンが表示されます。この機能をオフにするには、次のコマンドを実行します。

```
# gconftool-2 --type bool --set  
/desktop/gnome/interface/menus_have_icons false
```

または、Menus & Toolbars 設定ツールで「Show icons in menus」オプションの選択を解除します。

## スプラッシュ画面をオフにして CPU 使用率を減らす

デフォルトでは、デスクトップ環境にログインすると、スプラッシュ画面が表示されます。ログインしている間は、スプラッシュ画面にアイコンが表示されています。スプラッシュ画面をオフにすると、ログインしている間の CPU 使用率を減らせます。

スプラッシュ画面をオフにするには、次のコマンドを実行します。

```
# gconftool-2 --type bool --set /apps/gnome-  
session/options/show_splash_screen false
```

または、Sessions 設定ツールで「Show splash screen on login」オプションの選択を解除します。

## パネルアニメーションをオフにして CPU 使用率を減らす

パネルを表示または非表示にするときに、動画形式でパネルを表示または非表示にすることができます。パネルアニメーションをオフにするには、次のコマンドを実行します。

```
# gconftool-2 --type bool --set  
/apps/panel/global/enable_animations false
```

または、Panel 設定ツールで「**Drawer and panel animation**」オプションの選択を解除します。

## ファイルマネージャのパフォーマンスの改善

Nautilus ファイルマネージャの一部の機能を変更して、パフォーマンスを改善できます。

### パフォーマンス設定を変更する

ファイルマネージャには、パフォーマンスに関連する設定があります。各パフォーマンス設定は、3つの値のうち1つを持ちます。以下の表は、3つの値を説明しています。

値	説明
always	ローカルファイルと、別のファイルシステム上のファイルの両方に対して、動作を実行する
local_only	ローカルファイルに対してのみアクションを実行します。パフォーマンス設定を local_only セットすると、CPU 使用率は減少します
never	動作を実行しないパフォーマンス設定を never にセットすると、CPU 使用率とネットワークトラフィックは減少します

以下の表は、ファイルマネージャのパフォーマンス設定を説明しています。パフォーマンスを上げるには、設定値を never に設定します。

設定	説明
show_icon_text	<p>ファイルを表すアイコンで、テキストファイルの内容をいつプレビューするかを指定します。テキストファイルの内容をプレビューしない場合は、次のコマンドを実行します</p> <pre># gconftool-2 --type string --set /apps/nautilus/preferences/show_icon_text never</pre> <p>または、次の手順を実行します</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ファイルマネージャウィンドウで「編集」→「設定」を選択して、「プレビュー」を選択します</li> <li>2. 「アイコンにテキストを表示」設定のオプションを選択します</li> </ol>
show_directory_item_counts	<p>フォルダ内のアイテム数をいつ表示するかを指定します。フォルダ内の項目数を表示しない場合は、次のコマンドを実行します</p> <pre># gconftool-2 --type string --set /apps/nautilus/preferences/show_directory_item_counts never</pre> <p>または、次の手順を実行します</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ファイルマネージャウィンドウで「編集」→「設定」を選択して、「プレビュー」を選択します。</li> <li>2. 「Count number of items」設定のオプションを選択します。</li> </ol>
show_image_thumbnails	<p>イメージファイルのサムネイルをいつ表示するかを指定します。サムネイルを表示しない場合は、次のコマンドを実行します</p> <pre># gconftool-2 --type string --set /apps/nautilus/preferences/show_image_thumbnails never</pre> <p>または、次の手順を実行します</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ファイルマネージャウィンドウで「編集」→「設定」を選択して、「プレビュー」を選択します。</li> <li>2. 「Show thumbnails」設定のオプションを選択します</li> </ol>

設定	説明
preview_sound	<p>サウンドファイルの内容をいつプレビューするかを指定します。サウンドファイルの内容をプレビューしない場合は、次のコマンドを実行します</p> <pre># gconftool-2 --type string --set /apps/nautilus/preferences/preview_sound never</pre> <p>または、次の手順を実行します</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ファイルマネージャウィンドウで「編集」→「設定」を選択して、「プレビュー」を選択します。</li> <li>2. 「サウンドファイルをプレビュー」設定のオプションを選択します</li> </ol>

## サイド区画、ツールバー、ロケーションバーをオフにする

ファイルマネージャには、サイド区画とツールバーをオフにできる設定が含まれています。サイド区画とツールバーをオフにすると、ファイルマネージャのパフォーマンスが改善します。

サイド区画をオフにするには、次のコマンドを実行します。

```
# gconftool-2 --type bool --set /apps/nautilus/preferences/start_with_sidebar false
```

ツールバーをオフにするには、次のコマンドを実行します。

```
# gconftool-2 --type bool --set /apps/nautilus/preferences/start_with_toolbar false
```

ロケーションバーもオフに設定できます。Ctrl + L キーボードショートカットを使用して、ロケーションバーを必要に応じて表示できます。

ロケーションバーをオフにするには、次のコマンドを実行します。

```
# gconftool-2 --type bool --set /apps/nautilus/preferences/start_with_location_bar false
```

## デスクトップをオフにする

ファイルマネージャには、Nautilus を使用してデスクトップを管理できる設定が含まれています。デスクトップを無効にすることで、パフォーマンスを改善できます。デスクトップを無効にした場合、次の操作を行えません。

- 「デスクトップ」メニューを使用すること
- ファイルマネージャを使用してデスクトップ背景のパターンまたは色の変更

- ごみ箱などのデスクトップオブジェクトの使用デスクトップオブジェクトは、デスクトップに表示されません。

デスクトップを無効にするには、次のコマンドを実行します。

```
# gconftool-2 --type bool --set  
/apps/nautilus/preferences/show_desktop false
```

---

## X ウィンドウシステムのネットワークトラフィックの低減

この節では、GNOME デスクトップで X ウィンドウシステムのネットワークトラフィックを減少させる設定について説明します。

### ネットワークトラフィックの少ないテーマオプションを使用する

リモートディスプレイプロトコルは、ピクセルブロック内のピクセルがすべて同じ色の場合、そのブロック内のすべてのピクセルを転送しません。

X ウィンドウシステムのネットワークトラフィックを減らすには、単一色を使用するウィンドウフレームテーマオプションを使用します。つまり、次のいずれかのウィンドウフレームオプションを使用します。

- Atlanta
- Esco

テーマオプションの変更方法については、72 ページの「CPU リソースをあまり必要としないテーマオプションを使用する」を参照してください。

### メニュー上のアイコンをオフにしてネットワークトラフィックを減らす

メニュー上のいくつかの項目は、その項目の横にアイコンが表示されます。アイコンが別のファイルシステム上にある場合、この機能が原因で X ウィンドウシステムのネットワークトラフィックが増大します。また、パネルがリモートホスト上で表示される場合も、X ウィンドウシステムのネットワークトラフィックが増大します。

この機能を無効にする方法については、73 ページの「メニュー上のアイコンをオフにして CPU 使用率を減らす」を参照してください。

---

## 色の使用を減らして表示品質を改善

多くの現代のコンピュータシステムが 24 ビット色 (16,777,216 色) をサポートします。しかし、多くのユーザーが今だ 8 ビット色 (256 色) をサポートするシステムを使用しています。

GNOME デスクトップは、*websafe* カラーパレットを使用します。このパレットは 216 色の汎用パレットであり、8 ビット色をサポートするシステム上での色の使用を最適化するように設計されています。一方、GNOME デスクトップの一部の視覚構成要素は、24 ビット色をサポートするシステム用に設計されています。

以下に示す表示上の問題が、8 ビットをサポートするシステムで発生する可能性があります。

- ウィンドウ、アイコン、および背景イメージの粒子が粗くなる可能性があります。多くのテーマ、背景イメージ、およびアイコンは、*websafe* カラーパレットにはない色を使用します。パレットにない色は、最も近い色またはディザ処理した近似色に入れ替わります。このように色の入れ替えが原因で、粒子が粗くなります。
- *websafe* カラーパレットを使用しないアプリケーションは、利用可能な色が少なくなります。このためカラーエラーが発生する可能性があります。一部の色が、アプリケーションのユーザーインターフェイス上に現れない可能性があります。また、アプリケーションが色を割り当てることができない場合に、一部のアプリケーションで障害が発生する可能性があります。
- *websafe* カラーパレットを使用するアプリケーションと、このカラーパレットを使用しないアプリケーションとの間で切り替えを行うと、色の点滅が発生する場合があります。*websafe* カラーパレットを使用しないアプリケーションは、カスタムカラーマップを使用している可能性があります。カスタムカラーマップが使用されている場合、ほかの視覚構成要素が色を失い、見えなくなる可能性があります。

この節では、8 ビット色をサポートするシステムで、GNOME デスクトップの外観を最適化する方法について説明します。

## *websafe* カラーパレットを使用するテーマオプションを使用する

一部のウィンドウフレームテーマオプションは、*websafe* カラーパレット内の色を使用します。*Bright* と *Esco* は、*websafe* カラーパレットを使用します。*Bright* と *Esco* は、8 ビットのカラーディスプレイでの他のウィンドウフレームオプションのように粒子が粗くありません。8 ビットのビジュアルモードでは、*Bright* または *Esco* を使用すると色がきれいに表示されます。

テーマオプションの変更方法については、72 ページの「CPU リソースをあまり必要としないテーマオプションを使用する」を参照してください。

## メニュー上のアイコンをオフにして色の使用を減らす

メニュー上のいくつかの項目は、その項目の横にアイコンが表示されます。アイコンに `websafe` カラーパレットにはない色が含まれている場合、この機能によって使用される色の数が増えます。

この機能を無効にする方法については、73 ページの「メニュー上のアイコンをオフにして CPU 使用率を減らす」を参照してください。

## スプラッシュ画面をオフにして色の使用を減らす

スプラッシュ画面をオフにすると、GNOME デスクトップおよびアプリケーションが利用できる色が増えます。

スプラッシュ画面をオフにする方法については、73 ページの「スプラッシュ画面をオフにして CPU 使用率を減らす」を参照してください。

## 背景に単一色を使用して色の使用を減らす

デスクトップ背景には単一色を使用します。単一色の使用により、GNOME デスクトップが使用する色の数が減ります。

背景に単一色をセットするには、次のコマンドを実行します。

```
# gconftool-2 --type string --set
/desktop/gnome/background/picture_options none

# gconftool-2 --type string --set
/desktop/gnome/background/color_shading_type solid

# gconftool-2 --type string --set
/desktop/gnome/background/primary_color \#hexadecimal-color
```

または、Background 設定ツールで背景の単一色を選択します。

---

## ヘルプのパフォーマンスの改善

ヘルプのソース文書は XML ファイルです。XML ファイルは HTML に変換され、この HTML が Yelp ヘルプブラウザに表示されます。HTML は事前生成できます。つまり、ヘルプを使用する前に XML を HTML に変換することが可能です。

事前生成を行わなかった場合は、ヘルプファイル呼び出したときに変換が自動的に実行されます。ヘルプファイル呼び出したときに変換が行われると、変換はヘルプ文書の表示速度に重大な影響を及ぼします。

ヘルプのパフォーマンス問題を回避するため、HTML を事前生成し、ヘルプブラウザが変換を行わなくて済むようにしてください。ヘルプ文書の事前生成には、`yelp-pregenerate` コマンドを使用します。`yelp-pregenerate` コマンドの構文は、以下のとおりです。

```
yelp-pregenerate [- a | [-f filename ]] [ locale]
```

以下の表に、`yelp-pregenerate` コマンドのオプションと引数を示します。

オプションまたは引数	説明
<code>-a</code>	ScrollKeeper データベースに登録されている XML ファイルをすべて事前生成する。デフォルトオプション
<code>-f</code>	コマンドで指定した XML ファイルだけを事前生成する
<code>filename</code>	事前生成する XML ファイルの名前
<code>locale</code>	XML ファイルを事前生成するロケール。デフォルトのロケールは C (英語)

たとえば、ファイルシステムのすべての XML ファイルの英語バージョンを事前生成するには、以下のコマンドを実行します

```
# yelp-pregenerate -a
```

デフォルトのロケールが `c` なので、この例ではロケールを指定する必要はありません。`gedit` マニュアルのスペイン語バージョンを事前生成するには、以下のコマンドを実行します。

```
# yelp-pregenerate -f gedit.xml es
```

ヘルプファイルを開くと、ヘルプブラウザは以下の処理を行います。

1. ヘルプブラウザは、適切な HTML ファイルを検索します。HTML ファイルを検出すると、ヘルプブラウザはその HTML ファイルと対応する XML ファイルの変更日を比較します。HTML ファイルの日付が XML ファイルより新しい場合は、HTML ファイルが表示されます。
2. HTML ファイルの日付が XML ファイルより古い場合は、XML ファイルが HTML に変換されます。
3. ヘルプブラウザがヘルプ文書の HTML ファイルを検出できない場合も、XML ファイルは HTML に変換されます。

言い換えると、事前生成された HTML ファイルが存在する場合は、ヘルプブラウザはその HTML を表示します。事前生成された HTML ファイルが存在しない場合は、ヘルプブラウザは XML ファイルを HTML に変換します。

---

注 - GNOME デスクトップに追加する新しいアプリケーションのヘルプを事前生成したい場合もあります。お使いの環境の容量制限が厳しい場合は、ヘルプの事前生成を行わない選択をすることもできます。

---



## 付録 A

# 隠しディレクトリ

この付録では、GNOME デスクトップがユーザーのホームディレクトリに追加する隠しディレクトリについて説明します。

「隠しディレクトリ」とは、ディレクトリ名の先頭にピリオド (.) が付くディレクトリのことです。表 A-1 は、GNOME デスクトップがユーザーのホームディレクトリに追加する隠しディレクトリを示しています。

表 A-1 ユーザーのホームディレクトリ内の隠しディレクトリ

ディレクトリ	説明
<code>.esd_auth</code>	GNOME サウンドデーモン用の認証クッキーが含まれています。GNOME サウンドデーモンは、ESD (Enlightened Sound Daemon) です
<code>.gconf</code>	ユーザーの GConf 構成ソースが含まれています。ユーザーが設定をセットすると、新しい設定情報がこの場所に追加されます
<code>.gconfd</code>	以下の GConf デーモンの詳細が含まれています <ul style="list-style-type: none"><li>■ 構成情報</li><li>■ IOR (Interoperable Object Reference) によって参照されるオブジェクトのロック情報</li><li>■ IOR によって参照されるオブジェクトの状態情報</li></ul>
<code>.gnome</code>	GConf リポジトリには格納されないユーザー固有のアプリケーションデータが含まれています。たとえば、このディレクトリには MIME タイプ情報やユーザーのセッション情報が含まれています

表 A-1 ユーザーのホームディレクトリ内の隠しディレクトリ (続き)

ディレクトリ	説明
<code>.gnome-desktop</code>	<p>Nautilus ファイルマネージャには、ファイルマネージャを使用してデスクトップを管理できる設定があります。このオプションを選択すると、ユーザのデスクトップにあるオブジェクトはこのディレクトリに保存されます。このディレクトリは以下を含みます</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ デスクトップ上のオブジェクト (たとえば、「ホーム」オブジェクト、「ごみ箱」オブジェクト、およびほかのランチャー)。オブジェクトはデスクトップエントリファイルとしてディレクトリ上に表示されます。たとえば、<code>starthere.desktop</code> ファイルには、「ここからスタート」ロケーションへのリンクが含まれます</li> <li>■ マウントされているリムーバブルメディアのボリューム</li> </ul> <p>ファイルマネージャには、<code>.gnome-desktop</code> の代わりにホームディレクトリをデスクトップディレクトリとして使用できるようにする設定があります。このオプションを選択した場合、ホームディレクトリの内容が、デスクトップオブジェクトとして表示されます</p>
<code>.gnome2</code>	<p>GConf リポジトリには格納されないユーザー固有のアプリケーションデータが含まれています。たとえば、このディレクトリは以下のデータを含みます</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ キーボードショートカット情報</li> <li>■ ウィンドウの場所に関する情報</li> <li>■ パネルランチャー用のデスクトップエントリファイル</li> </ul> <p>このディレクトリは、ユーザー固有のメタデータも含みます。ユーザーがメタデータを変更した場合、詳細がここに格納されます</p>
<code>.gnome2-private</code>	<p>このディレクトリは使用されていません。このマニュアルの発行時点では、このディレクトリに機能はありません</p>
<code>.metacity</code>	<p>Metacity ウィンドウマネージャ用のセッションデータが含まれています</p>

表 A-1 ユーザーのホームディレクトリ内の隠しディレクトリ (続き)

ディレクトリ	説明
.nautilus	<p>ユーザー固有のファイルマネージャデータが含まれています。たとえば、このディレクトリは次のデータを含みます</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ ユーザーが作業するディレクトリ用のメタデータ</li> <li>■ ユーザーが追加する Nautilus エンブレム</li> <li>■ Nautilus デスクトップイメージ</li> </ul>
.themes	<p>ユーザが追加した制御テーマオプション、ウィンドウフレームテーマオプション、アイコンテーマオプションが含まれています。テーマの設定ツールでテーマを追加できます</p>
.thumbnails	<p>イメージサムネイルが含まれています。イメージサムネイルは、ファイルマネージャで使用されます。ファイルマネージャには、サムネイルイメージの生成の停止を選択できる設定があります</p>
.xscreensaver	<p>スクリーンセーバ構成データとスクリーンセーバ設定データが含まれています</p>



# 用語集

---

<b>.desktop</b> ファイル	デスクトップエントリファイルを参照
<b>.directory</b> ファイル	ディレクトリエントリファイルを参照
<b>.omf</b> ファイル	OMF ファイルを参照
アプリケーションレジストリ	アプリケーションレジストリとは、アプリケーションを登録するテキストファイルが含まれる場所。GNOME デスクトップのアプリケーションレジストリの場所は、以下のとおり <code>/usr/share/gnome/application-registry</code>
デスクトップエントリファイル	メニュー内の項目についての情報を提供するデータファイル。デスクトップエントリファイルは、名前、実行するコマンド、アイコンなどの項目の詳細を指定します。デスクトップエントリファイルには、 <code>.desktop</code> ファイル拡張子が付く
ディレクトリエントリファイル	メニューについての情報を提供するデータファイル。ディレクトリエントリファイルは、メニューの名前、メニューのツールチップ、メニューを表すアイコンなどの詳細を指定する。ディレクトリエントリファイルには、 <code>.directory</code> ファイル拡張子が付く
ファイルタイプ検索ツール	ファイルタイプ検索ツールは、ファイル内で検索するパターンを指定する。ファイルタイプ検索ツールは、MIME タイプとパターンを関連付ける。パターンとの一致が見つかったら、そのパターンに関連付けられている MIME タイプがファイルの MIME タイプになる
<b>GConf</b> 構成ソース	GConf リポジトリ内の保存場所。例: <code>xml:readonly:/etc/gconf/gconf.xml.defaults</code>
<b>GConf</b> 設定キー	アプリケーション設定に対応する GConf リポジトリ内の要素。たとえば、 <code>/apps/gnome-session/options/show_splash_screen</code> 設定キーは、セッション設定ツールの「ログオン時にスプラッシュ画面を表示する」オプションに対応する
<b>GConf</b> パスファイル	GConf 構成ソースとソースの検索順序がリストされたファイル
<b>GConf</b> スキーマ	スキーマキーとスキーマオブジェクトの総称

<b>GConf</b> スキーマ定義ファイル	GConf スキーマ定義ファイルには、特定のアプリケーションのキーが含まれており、それらのキーの特性を定義する。GConf スキーマは、スキーマ定義ファイルから生成される。スキーマ定義ファイルには、 <code>.schemas</code> 拡張子が付きます。
<b>GConf</b> スキーマキー	設定キーのスキーマオブジェクトを格納するキー。たとえば、 <code>/schemas/desktop/gnome/interface/font_name</code> は、 <code>/desktop/gnome/interface/font_name</code> 設定キーのスキーマキーである
<b>GConf</b> スキーマオブジェクト	設定キーに関する情報を含む構成ソース内の要素。スキーマオブジェクトは、設定キーのデフォルト値、設定キーの説明などの情報を持つ
<b>IOR (Interoperable Object Reference)</b>	IOR は、CORBA オブジェクトに対する文字列参照。IOR は、オブジェクトを制御するためにメッセージを送信できるホスト名とポートをエンコードする。IOR は、オブジェクトを識別するオブジェクトキーを持っている
<b>MIME</b>	Multipurpose Internet Mail Extension の略
<b>MIME</b> 情報ファイル	MIME 情報ファイルは、MIME タイプとファイル拡張子およびファイル名パターンを関連付けるテキストファイル。MIME 情報ファイルには、 <code>.mime</code> ファイル拡張子が付く
<b>MIME</b> キーファイル	MIME キーファイルは、ユーザーインターフェイスで使用される MIME タイプに関する情報を提供する。たとえば、MIME キーファイルは、その MIME タイプのファイルを表すアイコンを指定する。MIME キーファイルには、 <code>.keys</code> ファイル拡張子が付く
<b>MIME</b> タイプ	MIME タイプは、ファイルの形式を識別する。アプリケーションは、MIME タイプによってファイルを読み取ることができる。たとえば、電子メールアプリケーションは、 <code>image/png</code> MIME タイプから、電子メールに PNG (Portable Networks Graphic) ファイルが添付されていることを認識する
<b>MIME</b> タイプレジストリ	MIME タイプレジストリは、デスクトップ環境の MIME タイプを登録するテキストファイルが含まれる場所。GNOME デスクトップの MIME タイプレジストリの場所は、以下のとおり <code>/usr/share/mime-info</code>
<b>OMF</b> ファイル	Open Source Metadata Framework ファイル。OMF ファイルは、マニュアルの XML ファイルに関連付けられる。OMF ファイルには、ヘルプブラウザが使用するマニュアルについての情報が含まれている。OMF ファイルの拡張子は、 <code>.omf</code>
<b>PAM</b> パターンマスク	プラグイン可能認証モジュール (Pluggable Authentication Module)。パターンマスクは、ファイルタイプ検索ツール内の一連の 16 進数文字。パターンマスクは、ファイル内でパターンを検索するときに、パターン中で無視するビットを識別する

事前生成	オンラインヘルプの使用前に、オンラインヘルプのソース XML ファイルを HTML へ変換すること。ヘルプを事前生成すると、ヘルプブラウザのパフォーマンスを改善できる。ヘルプの生成には、yelp-pregenerate コマンドを使用する
スクリーンセーバー	スクリーンセーバーは、画面が使用されていないときに、画面上のイメージを置き換えるアプリケーションのこと。GNOME デスクトップ用のスクリーンセーバーアプリケーションは、XScreenSaver
スクリーンセーバーディスプレイ	スクリーンセーバーディスプレイは、画面が使用されていないときに、画面上にイメージを表示するアプリケーションのこと
UDP	ユーザデータグラムプロトコル
URI (Uniform Resource Identifier)	URI (Uniform Resource Identifier) は、ファイルシステム内または Web 上の特定の場所を識別する文字列。たとえば、Web ページのアドレスは URI である
vfolder	システム上の物理的な場所に存在する項目の仮想表現。たとえば、vfolder が、いくつかのディレクトリの内容を表す場合があります。メニューにおいて vfolder は、物理的には複数のディレクトリに置かれている項目のメニュー上の表現になる
vfolder 情報ファイル	XML 形式の vfolder の説明ファイル。vfolder 情報ファイルは、メニューの構造を指定する
websafe カラーパレット	websafe カラーパレットは、汎用の 216 色のパレット。websafe カラーパレットは、8 ビット色をサポートするシステムにおける色の使用を最適化するように設計されている。websafe カラーパレットは、「Netscape カラーパレット」または「Netscape カラーキューブ」とも呼ぶ



# 索引

---

## C

CPU 使用率, 減らす, 71

## D

.desktop ファイル, デスクトップエントリ  
ファイルを参照

.directory ファイル, ディレクトリエントリ  
ファイルを参照

## G

### GConf

構成エディタを参照

GConf エディタ, 使用, 29

HTTP プロキシの設定, 20

概要, 11

キーボードアクセシビリティの設定, 21

キーボードショートカットの設定, 21

構成ソース, 13

コマンドラインツール, 16

スキーマ, 14

スキーマオブジェクト, 14

スキーマキー, 14

スキーマ定義ファイル

概要, 15

パネルおよびパネルオブジェクト, 22

スプラッシュイメージの設定, 27

設定値, 19

デーモン, 15

デフォルト設定値の復元, 27

### GConf (続き)

背景、設定, 26

パネルオブジェクトの環境の設定, 21

パネルの設定の個別に設定, 21

フォントの設定, 26

リポジトリ, 12

ワークスペースの数の設定, 20

gconfd, GConf デーモンを参照

gconftool-2, GConf コマンドラインツールを参  
照

### GDM

XDMCP の設定, 60

新しいセッションへのログイン, 61

一般設定, 56

概要, 55

グラフィカルログイン画面の設定, 58

セキュリティ設定, 59

標準ログイン画面の設定, 57

GNOME ログイン画面, 設定, 57

GTK+ テーマ, テーマ、コントロールオブ  
ションを参照

## H

HTTP プロキシ, GConf による設定, 20

## M

### MIME タイプ

MIME キーファイル, 51

MIME 情報ファイル, 50

## MIME タイプ (続き)

- MIME タイプレジストリ, 50
- アプリケーションの追加, 54
- アプリケーションの登録, 52
- 概要, 47
- 検出, 48
- パターンマスク, 49
- ファイルタイプ検索ツール, 48
- MIME タイプの検出, 48

## N

Nautilus, ファイルマネージャを参照

## O

OMF ファイル, 69  
.omf ファイル, OMF ファイルを参照

## S

ScrollKeeper カタログ作成システム, 70

## V

vfolder, 32  
vfolder 情報ファイル, 32

## X

XDMCP, GDM 向けの設定, 60  
XScreenSaver, スクリーンセーバーを参照  
X ウィンドウシステムのネットワークトラフィック、減らす, 77

## あ

アイコンテーマ, テーマ、アイコンオプションを参照  
アイコン、メニュー上の、メニューアイコンを参照  
新しいセッションへのログイン, 61

## アプリケーション

追加, 54  
レジストリ, 52

## い

色の使用、減らす, 78

## お

オンラインヘルプ、ヘルプを参照

## か

改善、ヘルプのパフォーマンス, 79  
隠しディレクトリ, 83

## き

キーボード  
GConf によるショートカットの設定, 21  
GConf を使ったアクセシビリティの設定, 21

## く

グラフィカルログイン画面, 設定, 58

## こ

構成エディタ  
概要, 28  
キー値の変更, 29  
ブックマーク, 29

## す

スキーマ  
スキーマオブジェクト, 14  
スキーマキー, 14

スキーマ (続き)  
スキーマ定義ファイル  
概要, 15  
パネルおよびパネルオブジェクト, 22  
説明, 14  
スクリーンセーバー  
概要, 63  
スクリーンセーバーディスプレイの変更, 64  
設定, 63  
スプラッシュ画面  
CPU 使用率, 73  
イメージ、GConf による設定, 27  
色の使用, 79  
オフにする, 73

## せ

セッション  
概要, 67  
デフォルトの設定, 68  
設定エディタ、キー名のコピー, 29  
設定値  
GConf による設定, 19  
GConf によるデフォルトへの復元, 27

## て

\*ディレクトリ、隠しディレクトリを参照  
ディレクトリエントリファイル, 35  
テーマ  
CPU の使用, 72  
アイコンオプション  
インストール, 44  
概要, 42  
アイコンのインストール, 45  
ウィンドウフレームオプション  
CPU の使用, 72  
インストール, 44  
概要, 41  
カラーの使用, 78  
ネットワークトラフィック, 77  
変更, 72  
概要, 41  
カラーの使用, 78  
コントロールオプション  
インストール, 43

テーマ、コントロールオプション (続き)  
概要, 41  
カスタムの作成, 46  
ネットワークトラフィック, 77  
デスクトップ  
オフにする, 76  
フォントの設定、GConf による設定, 26  
デスクトップエントリファイル, 34

## ね

ネットワークトラフィック、減らす, 77

## は

背景  
設定、GConf による設定, 26  
単一色の使用, 79  
パターンマスク, 49  
パネル  
アニメーションをオフにする, 74  
設定、個別、GConf による設定, 21  
パフォーマンス、改善、概要, 71  
パフォーマンス、改善、ヘルプ, 79  
パフォーマンスの改善、CPU 使用率を減らす, 71

## ひ

表示品質の改善, 78

## ふ

ファイルタイプ検索ツール, 48  
ファイル抽象レイヤー、メニュー, 32  
ファイルマネージャ  
サイド区画をオフにする, 76  
ツールバー、オフにする, 76  
デスクトップ、オフにする, 76  
パフォーマンス設定の変更, 74  
メニューの追加, 36  
ロケーションバー、オフにする, 76  
フォント、GConf による設定, 26

## へ

### 減らす

- CPU 使用率, 71
- X ウィンドウシステムのネットワークトラフィック, 77
- 色の使用, 78

### ヘルプ

- OMF ファイル, 69
- ScrollKeeper カタログ作成システム, 70
- 概要, 69
- パフォーマンスの改善, 79

## め

メタシティテーマ, テーマ, ウィンドウフレームオプションを参照

### メニュー

- vfolder, 32
- vfolder 情報ファイル, 32
- 概要, 31
- 項目の追加, 37
- 設定の編集, 38
- ファイル抽象レイヤー, 32
- ファイルマネージャによる追加, 36
- 編集, 36
- メニュー項目の削除, 38
- メニュー項目の編集, 38
- メニューファイルを使用して追加, 37
- ユーザーが変更できないメニューを設定, 39

### メニューアイコン

- CPU 使用率, 73
- 色の使用, 79
- オフにする, 73
- ネットワークトラフィック, 77

## ろ

ログイン画面, GDMを参照

## わ

ワークスペース, GConf による数の設定, 20